

1-10 哲学

研究・教育活動の概要と特色

本専攻分野においては、古代ギリシアに始まり、主として西欧世界に受け継がれて今日に至っている西洋哲学の営みを引継ぎ、さらに推進することが目指されている。そこで研究は、先人たちの思想的遺産を研究対象とする歴史的考察と、哲学の問題そのものと対峙する体系的考察とを車の両輪として進められる。スタッフの専門分野は古代中世哲学、近現代哲学、科学哲学、生命環境倫理学（科学技術倫理／臨床倫理学を含む）などであり、講義や研究演習を通して、原典の精密な読解と、それに基づく哲学的探究を実践すると共に、研究能力を身につける訓練を行っている。学生の指導にあたっては、自ら選んだテーマをめぐって、先人と対話すべく原典に向かい、また先行研究を押えた上で、自らの思索を展開することにとくに留意している。2012年度に野家啓一教授が、2014年度には座小田豊教授がそれぞれ定年退職したが、2015年10月に新任教員が着任する予定となっている。

本専攻分野の特色は、第一に1922年（大正11年）創設以来の伝統ある学問活動の蓄積である。日本の哲学研究をリーダーする研究者たちが歴代の教員となり、現象学をはじめとして顕著な業績を挙げた研究者を輩出してきた。このような伝統を受け継ぎつつ、哲学研究を国際的な場でさらに推進しようとしている。第二に、以上に加えて近年は、現代社会が抱える諸問題に哲学の視点から向かう試みに意欲的に取り組んでいる点が、特色として挙げられる。このため、倫理学専攻分野と連携しつつ、科学研究費、受託研究費（日本学術振興会 人文・社会科学振興研究事業）を積極的に導入し、一連の研究プロジェクト全体を、「人間の21世紀的Well-Being研究プロジェクト」として総括して、文学研究科の主要研究プロジェクトの一つとして推進してきた。その後「科学的合理性と社会的合理性に関する社会哲学的研究」（科学研究費補助金基盤研究（A））、「科学技術における討議倫理のモデル構築」（科学研究費補助金基盤研究（B））をテーマに、科学技術倫理を中心にした「討議倫理」の課題と取り組み、現在は「自然観の変遷と人間の運命」のテーマのもと東日本大震災をも念頭に自然と人間に関する理論的、実践的問題を課題としている。また2008年度からは、理学研究科のグローバルCOE「物質階層を紡ぐ科学フロンティアの新展開」に哲学講座として関わり、事業の展開に積極的に協力してきた。さらに、リーディング大学院プログラム・複合領域型（安全安心）「グローバル安全学トップリーダー育成プログラム」の「安心安全に生きる」のユニットや複合領域型（物質）「マルチディメンジョン物質理工学リーダー養成プログラム」にも参加している。

I 組織

1 教員数 (2015年5月現在)

教授：1

准教授：2

講師：0

助教：1

教授：直江清隆

准教授：荻原理、原塑

助教：佐藤 駿

2 在学生数 (2015年5月20日現在)

学部 (2年次以上)	学部 研究生	大学院博士 前期	大学院博士 後期	大学院 研究生	科目等履修生
42	0	11	7	1	0

3 修了生・卒業生数 (2010～2014年度)

年度	学部卒業生	大学院博士課程 前期修了者	大学院博士課程 後期修了者 (満期退学者)
10	9	1	0
11	10	3	1
12	8	4	2
13	10	6	3
14	11	1	4
計	48	15	10

II 過去5年間の組織としての研究・教育活動 (2010～2014年度)

1 博士学位授与

1-1 課程博士・論文博士授与件数

年度	課程博士授与件数	論文博士授与件数	計
10	0	0	0
11	1	0	1
12	2	2	4
13	3	1	4
14	2	0	2
計	8	3	11

1-2 博士論文提出者氏名、年度、題目、審査委員

佐藤優子、2011年度、『ハイデガーと「神」の問題——『哲学への寄与』を出発点として——』

審査委員：教授・座小田豊（主査）、教授・野家啓一、教授・戸島貴代志、准教授・直江清隆、准教授・荻原理、准教授・原塑

佐藤駿、2012年度、『E・フッサールにおける超越論的現象学と世界経験の哲学——『論理学研究』から『イデーン』まで』

審査委員：教授・野家啓一（主査）、教授・座小田豊、教授・戸島貴代志、准教授・直江清隆、准教授・荻原理、准教授・原塑

梶尾悠史、2012年度、『フッサール知覚の現象——意味・超越・真理——』

審査委員：教授・野家啓一（主査）、教授・座小田豊、教授・戸島貴代志、准教授・直江清隆、准教授・荻原理、准教授・原塑

小熊正久、2012年度、『フッサール現象学における表象媒体の研究——知覚・想像・画像表象に関して——』（論文博士）

審査委員：教授・野家啓一（主査）、教授・座小田豊、教授・戸島貴代志、准教授・直江清隆

直江清隆、2012年度、『価値と技術の現象学』（論文博士）

審査委員：教授・野家啓一（主査）、教授・座小田豊、教授・戸島貴代志

日笠晴香、2013年度、『意思決定における自律と最善の利益』

審査委員：教授・座小田豊（主査）、教授・戸島貴代志、教授・清水哲郎、准教授・直江清隆、准教授・荻原理、准教授・原塑

阿部ふく子、2013年度、『ヘーゲル哲学における思弁の生成』

審査委員：教授・座小田豊（主査）、教授・戸島貴代志、准教授・直江清隆、准教授・荻原理、准教授・原塑

西岡圭子、2013年度、『メルロ＝ポンティの「教育」の哲学——近代教育学を超えていくための手掛かりを求めて——』

審査委員：教授・座小田豊（主査）、教授・戸島貴代志、教授・佐藤透、准教授・直江清隆、准教授・荻原理、准教授・原塑

城戸淳、2013年度、『理性の深淵——カント超越論的弁証論の研究』（論文博士）

審査委員：教授・座小田豊（主査）、教授・戸島貴代志、准教授・直江清隆

遠藤健樹、2014年度『解釈・共同性・宗教——カール・レーヴィットとレオ・シュトラウスにおける初期政治哲学の比較研究』

審査委員：教授・座小田豊（主査）、教授・戸島貴代志、教授・直江清隆、
准教授・荻原理、准教授・原塑

嶺岸佑亮、2014年度「ヘーゲル哲学における主体性の思想についての研究——「自己であること」について——」

審査委員：教授・座小田豊（主査）、教授・戸島貴代志、教授・直江清隆、
准教授・荻原理、准教授・原塑

松丸啓子、2015年度「ヤスパースの精神医学の哲学——『精神病理学総論』の意義をめぐって——」

審査委員：教授・直江清隆（主査）、教授・座小田豊（主査）、教授・戸島貴代志、
准教授・荻原理、准教授・原塑

2 大学院生等による論文発表

2-1 論文数

年度	審査制学術誌 (学会誌等)	非審査制誌 (紀要等)	論文集 (単行本)	その他	計
10	5	1	1	4	11
11	6	1	1	1	9
12	2	0	1	0	3
13	4	0	1	0	5
14	3	1	0	0	4
15	1	2	0	0	3
計	21	5	4	5	35

*2014年度は7月末までの数字。ただし、以後の掲載が決定しているものも含む。

2-2 口頭発表数

年度	国際学会	国内学会	研究会	その他	計
10	6	5	7	0	18
11	5	7	5	0	17
12	5	3	2	0	10
13	0	1	3	0	4
14	0	0	3	0	3
15	0	4	2	0	6
計	16	20	22	0	58

*2014年度は7月末までの数字。ただし、以後の掲載が決定しているものも含む。

2-3 上記の大学院生等による論文・口頭発表の中の主要業績

(1) 論文

阿部ふく子「哲学の〈学習〉としての体系——ヘーゲルの教育観と哲学的エンツクロペディーの関係について——」、久保陽一編『ヘーゲル体系の見直し』所収、理想社、pp.101-117、2010年

阿部ふく子「解題：J・G・フィヒテ「シュミット教授によって樹立された体系と知識学との比較」（栗原隆・阿部ふく子訳）、『世界の視点 知のトポス』、新潟大学大学院現代社会文化研究科共同研究プロジェクト「世界の視点をめぐる思想史的研究」新潟大学人文学部哲学・人間学研究会編、第5号、2010年

阿部ふく子「思弁哲学の公教性—ヘーゲルの通俗哲学批判とその克服」（発表要旨）、『東北哲学会年報』、pp.93-94、2010年

阿部ふく子「哲学と人間形成—ニートハンマーとシェリングの教養形成論をめぐって」、『シェリング年報』、日本シェリング協会編、第19号、2011年

Fukuko ABE, System als Erlernen der Philosophie: Zum Verhältnis zwischen der Hegelschen Erziehungsanschauung und seiner philosophischen Enzyklopädie, in: Logik und Realität, hrsg. v. Ch. Jamme und Y. Kubo, Wilhelm Fink Verlag, München 2011.

阿部ふく子「解題：G・W・F・ヘーゲル「アルプス徒歩旅行についての報告」（加藤尚武・田中純夫・阿部ふく子訳）、『世界の視点 知のトポス』、新潟大学人文学部哲学・人間学研究会編、第6号、pp.126-131、2011年

越後正俊「『論理学研究』におけるカテゴリー的形式の基づけ関係について」、東北哲学会年報、No.29、p.65-80、2013年

遠藤健樹「『共同存在』と『政治的なもの』—カール・レーヴィットによるシュミット批判の帰趨」、『倫理学年報』（日本倫理学会）、第五十九集、2010年。

遠藤健樹「解釈学的な相互承認—レーヴィットにおける共同相互存在論の一帰結」、『思索』第43号、71頁～88頁、2010年。

遠藤健樹「解体と伝統—シュトラウスによるハイデガーの解体概念受容について」、『政治哲学』第11号、政治哲学研究会、2011年。

梶尾悠史「知覚と解釈—フッサール現象学における統握理論をめぐって」『東北哲学会年報』（東北哲学会）、第26号、2010年

梶尾悠史「現象学的内在主義—意味志向と意識の現実」、『現象学年報』、日本現象学会編、No.28、2012年

佐藤駿「知覚と現実--「理性の現象学」の観点から」『現象学年報』26、pp. 109-116、

2010

佐藤駿「フッサールと選言主義」『文化』第74巻第3・4号、2011年3月、pp.21-41.

佐藤駿「固有意義について」日本現象学会編『現象学年報』29、95-104頁、2011年。

鹿野祐介「人格の同一性における重複の問題と数的同一説」『思索』第四十六号、69-95頁、2013年

鹿野祐介、「ロック主義と動物主義——動物主義を導く論証の妥当性」、『東北哲学学会年報』、2015年、4月

菅原宏道「ヒュームの因果論における実験的推理法と前提事項」、『東北哲学学会年報』、第27号、31-47ページ、2011年

菅原宏道「ヒュームの人間学における論証」、『文化』、東北大学文学会（編）、第75巻第3,4号、2012年

鈴木亮三「ヘーゲルにおけるオイディプス問題」日本ヘーゲル学会編『ヘーゲル哲学研究』19、155-167頁、2013年。

鈴木亮三「変転から持続へ——『精神現象学』における感情—行為論」東北大学哲学研究会編『思索』46、51-68頁、2013年。

西岡けいこ「まなざしの歴史性——『眼と精神』再読の視座」、東北哲学学会年報、No.29、p.51-63、2013年

二瓶真理子「科学的事実はつくられているのか？—実験室科学における「社会的構成」と「実物的安定性」—」、『文化』、東北大学文学会編、第73巻第3・4号、pp.361—343、2010

二瓶真理子「書評：Agassi & Meidan, Philosophy from A Skeptical Perspective」、『批判的合理主義研究』（日本ポパー哲学研究会編）、Vol.2, No.1、33-37、2010

二瓶真理子、直江清隆「書評 デービス・ベアード著、松浦俊輔訳『もののかたちをした知識—実験機器の哲学』」『科学哲学』43-2号、2010、p.111-115

日笠晴香「『最期の選択』をどう考えるか」『東北大学臨床死生学研究会研究報告』（東北大学臨床死生学研究会）第1号、2010年、7-16頁

松丸啓子「〈不安〉と「不安障害」、中山剛史・信原幸弘編著『精神医学と哲学の出会い』（玉川大学出版部）所収、2013年

嶺岸佑亮「ヘーゲル論理学における概念の自己生成と定立について」、『東北哲学学会年報』、東北哲学学会、No. 28、pp. 77-91、2012年

嶺岸佑亮「概念の主体性における個と普遍の本質について——ヘーゲル論理学における「概念の人格性」をもとにして—」、『ヘーゲル哲学研究』、こぶし書

- 房、vol.18、pp. 128-139、2012年
- 嶺岸佑亮「「定立されていること」と自らを根拠とすること——ヘーゲル論理学における現実性について——」、『ヘーゲル哲学研究』、こぶし書房、vol.20、pp. 157-170、2014年12月
- 矢口正史『カントにおける認識の限界性と神の現存在—ルソーの思想からの検討』、東北哲学会年報、No. 27、49頁～62頁、2011年
- 山下哲朗「カテゴリー的直観とアプリアリな全体性—ハイデガーによるカテゴリー的直観の領得をめぐって」、『フッサール研究』（フッサール研究会）、第8号、2010年
- 山下哲朗「ロゴスと真理—ハイデガーのロゴス論における真理概念の規定」、『現象学年報』、日本現象学会編、第27号、2011年
- 山下哲朗「意味の充実と産出をめぐる解釈学的思考——齋藤元紀氏『存在の解釈学』への書評」東北大学倫理学研究会編『モラリア』20・21（合併号）、88-106頁、2014年
- 吉田哲也「フレーゲにおける述語——不飽和性と述語の意義」（要旨）、『東北哲学会年報』No.29、2013年、p.143-144

(2) 口頭発表

- Hiroyuki Akatsuka, “Vom Menschen als Medium”, Tagung bey Österreichischer Gesellschaft für Philosophie, 05 06. 2015.
- Fukuko ABE, “A study of the idea of systematic knowledge: On the relation between nature and spirit in the organizational view on nature”, The 2nd International GCOE symposium on “Weaving Science Web beyond Particle-Matter Hierarchy”, no.73, in Tohoku University, Sendai, Japan, February 18-19, 2010. (ポスター発表)
- 阿部ふく子「哲学と人間形成—ニートハンマー・シェリング・ヘーゲルの教養形成論をめぐって」、日本シェリング協会第19回大会、於・神奈川大学、2010年7月
- 遠藤健樹「解釈学的な相互承認—レーヴィットにおける共同相互存在論の一帰結」、東北大学哲学研究会『思索』例会、2010年6月。
- 遠藤健樹「解体と伝統—シュトラウスによるハイデガーの解体概念受容について」、第18回政治哲学研究会、於・札幌大学、2011年9月。
- 越後正俊「明証概念の帰趨 —『論理学研究』から『イデーニ I』へ」、フッサール研究会、関西大学飛鳥文化研究所、2010年3月27日

ECHIGO Masatoshi, "Prolegomena revisited" The 4rd GCOE International Symposium "Weaving Science Web beyond Particle-matter Hierarchy", Tohoku University (Sendai), Feb 2012.

ECHIGO Masatoshi, "Formal Ontology in "Logical Investigations"", the 5th International GCOE symposium on "Weaving Science Web beyond Particle-Matter Hierarchy", Tohoku University (Sendai), March 2013.

越後正俊 『論理学研究』におけるカテゴリー的形式、東北哲学会第 62 回大会、於 東北大学、2012 年 10 月

梶尾悠史 「現象学と外在主義—意味志向の超越論的な文脈性」 岩手哲学会第 44 回大会、2010 年 7 月

梶尾悠史 「真理と明証——フッサール現象学の真理論——」 第 13 回北日本哲学研究会、北海道大学、2011 年 1 月

Kajio Yushi, "Truth and Evidence: A Study of Husserl's Theory of Truth", The 3rd GCOE International Symposium "Weaving Science Web beyond Particle-matter Hierarchy", Tohoku University (Sendai), Feb 2011.

梶尾悠史 「現象学的内在主義—意味志向と意識の現実」、日本現象学会第 33 回大会、於・立命館大学、2011 年 11 月

KAJIO Yushi "On the Intentionality in Artistic Activity", 6th Symposia
Phaenomenologica Asiatica: Master Class in Phenomenology for Asian Scholars 2012,
The Chinese University of Hong Kong (Hong Kong), Aug 2012

川島彬 「『国家』第 V 卷 475e-480a における「知識」と「思いなし」」、第二回 PAP 研究会、2014 年 8 月 1 日、於弘前大学教育学部

佐藤駿 「フッサールと選言主義—現象学における知覚経験の理論について」 第 12 回北日本哲学研究会、東北大学、2010 年 1 月

佐藤駿 「フッサールにおける超越論的観念論と形而上学」 日本現象学会第 32 回大会ワークショップ「フッサールの超越論的観念論再考」2010 年 11 月、東京大学

Sato Shun, "The Faces of Perceptual Object", The 3rd GCOE International Symposium "Weaving Science Web beyond Particle-matter Hierarchy", Tohoku University (Sendai), Feb 2011.

佐藤駿 『カテゴリー的直観』再考 「表象媒体の哲学的研究」研究会、2014 年 7 月 12 日、於山形大学東京サテライト。

- 鹿野祐介「人の同一性における重複の問題と数的同一説」、東北大学哲学研究会(『思索』発表会)、於東北大学、2013年6月
- 鹿野祐介、「ロック主義と動物主義——ヒトとしての「私」と人格としての「私」——」、東北哲学会第64回大会、2014年10月25日、於：東北大学。
- 鹿野祐介、「人物同一性と規約」、応用哲学会第七回年次研究大会、2015年4月25日、於：東北大学
- 菅原宏道「ヒュームの経験論と実験的推想法 (“Hume’s empiricism and the experimental method of reasoning”)」グローバルCOEプログラム「物質階層を紡ぐ科学フロンティアの新展開」、第2回国際シンポジウム、2010年2月18-19日、仙台、日本
- 菅原宏道「ヒュームの因果論における実験的推想法と前提事項」東北哲学会第60回大会、2010年10月23-24日、仙台(東北大学)、日本
- 菅原宏道「ヒュームにおける「観念の関係」の分析性 (“Hume on Analyticity on ‘Relations of Ideas’ ”)」グローバルCOEプログラム「物質階層を紡ぐ科学フロンティアの新展開」、第3回国際シンポジウム、日本、2011年2月17-19日、仙台(東北大学)、日本
- 菅原宏道「ヒュームの論理学における理性と信念——懐疑論との関係を通じて」北日本哲学研究会、2014年1月12日、東北大学。
- SUGAWARA Hiromichi, “Hume on Logic and Demonstration” (ポスター発表), The 4th International GCOE symposium on “Weaving Science Web beyond Particle-Matter Hierarchy”, Tohoku University(Sendai), February 2012.
- SUGAWARA Hiromichi, “Hume’s Eclectic Method on Logic” The 5th International GCOE symposium on “Weaving Science Web beyond Particle-Matter Hierarchy”, Tohoku University(Sendai), March 2013.
- SUZUKI Ryozo, The Finiteness of Human Beings and the Role of Technology, The 2nd GCOE International Symposium, Poster presentation, at Tohoku Univ., February 18-19,2010.
- 鈴木 亮三「ヘーゲルにおける「所有の運命」」東北大学哲学研究会、2014年6月。
- 西岡けいこ「まなざしの歴史性——可能的鑑賞者の観点からの『目と精神』再読」、東北哲学会第62回大会、於東北大学、2012年10月
- Mariko Nihei, “Epistemic deference and Transmission of Knowledge”, P-76, The 2nd GCOE International Symposium, Tohoku University, Sendai, Japan,(February18-19, 2010)

Mariko Nihei, “The Distinction between Social and Epistemic Values in Scientific Inquiry”,
The 3rd GCOE International Symposium ”Weaving Science Web beyond
Particle-matter Hierarchy”, Tohoku University (Sendai), Feb 2011.

NIHEI mariko, “Rethinking the Duhem-Quine these: the gap between
material-experimental holism and semantic-theoretical holism”, The 5th International
GCOE symposium on “Weaving Science Web beyond Particle-Matter Hierarchy”,
Tohoku University(Sendai), March 2013.

Hikasa Haruka, Medical technology and surrogate decision-making, The 2nd GCOE
International Symposium, Poster presentation, at Tohoku Univ., February 18-19,2010.

日笠晴香「最期の過ごし方についての事前の意思表示——リビング・ウィルをどう考えるか」 介護者応援ネットワークみやぎ主催「介護と看取りのしゃべり場」(於 仙台市戦災復興記念館)、2010年6月13日。

日笠晴香「事前指示の有効性と最善の利益」臨床死生学・臨床倫理学研究会(於 東京大学)、2010年6月24日。

日笠晴香「リビング・ウィルをどう考えるか——終末期における事前意思表示と最善の利益をめぐって」東北多文化アカデミー主催「多文化講座 介護と看取りのセミナー」(於 財団法人東北多文化アカデミー)、2011年2月19日。

日笠晴香「誰が、何を、どうやって決めるのか——認知症の場合の事前指示」〈ケア〉を考える会主催「高齢社会における認知症のターミナルを考える」(於 大阪大学)、2011年8月21日。

Hikasa Haruka, “Autonomous decision-making and informed consent”, The 4rd GCOE
International Symposium ”Weaving Science Web beyond Particle-matter Hierarchy”,
Tohoku University (Sendai), Feb 2012.

FUJIO Yasuhiko, ”Risk,uncertainty and the precautionary principle: How to deal with
scientific uncertainty?”, The 2nd GCOE International Symposium ”Weaving Science
Web beyond Particle-matter Hierarchy”,Tohoku University(Sendai), February 2010.

FUJIO Yasuhiko, “An inquiry into the ethical significance of the precautionary principle:
How to make decisions under uncertainty”, The 3rd GCOE International
Symposium ”Weaving Science Web beyond Particle-matter Hierarchy”, Tohoku
University (Sendai), Feb 2011.

藤尾靖彦「最高善と永遠平和—カント実践哲学における最高善の理念の統一的理解を求めて」日本哲学会第70回大会、2011年5月14日、東京大学

- 藤尾靖彦「リスボン地震とカント—自然における人間の地位をめぐって」日本カント協会第36回大会、2011年11月12日、首都大学東京
- 藤尾靖彦「リスク、不確実性、予防原則—仮想的回顧の構想による予防原則の倫理的意義—」日本倫理学会第62回大会、2011年10月1日、富山大学
- FUJIO Yasuhiko, “The rationality of the Precautionary principle: making the precautionary principle more applicable”, The 4rd GCOE International Symposium “Weaving Science Web beyond Particle-matter Hierarchy”, Tohoku University (Sendai), Feb 2012.
- 松丸啓子「ヤスパースの精神病理学の哲学」（仮題）、
日本ヤスパース協会第30回大会・シンポジウム、2013年12月
- 嶺岸佑亮「ヘーゲル論理学における概念の自己生成と定立について」、東北哲学学会第61回大会、於弘前大学、2011年10月
- MINEGISHI Yuusuke, “The problem of the relationship between individuality and universality in Hegel’s philosophy”, The 4rd GCOE International Symposium “Weaving Science Web beyond Particle-matter Hierarchy”, Tohoku University (Sendai), Feb 2012.
- 嶺岸佑亮「ヘーゲル哲学における知の主体性と本質について—本質の映現をもとにして—」、『日本ヘーゲル学会』、横浜、2012年12月
- 嶺岸佑亮「「何であるか」ということと「何者であるか」ということ——フィヒテの宗教論における自己とその根底について——」東北大学哲学研究会、2014年6月。
- 矢口正史「カントにおける認識の限界性と神の現存在—ルソーの思想からの検討」、東北哲学会 第60回大会、2010年10月
- 矢口正史「カントの批判期における倫理神学の構築——倫理神学の構築による< 道徳法則の尊厳性 >の提示——」日本カント協会第36回学会 於・首都大学東京 2011年11月
- 矢口正史「自然概念と自由概念の間における深淵—『判断力批判』第一部「美感的判断力の批判」の神学的な意義」、カント研究会、於法政大学 2012年7月
- 矢口正史「カントにおける主観的合目的性と修辞学—自然概念から自由概念への移行をめぐって」、東北大学哲学研究会（『思索』発表会）、於東北大学、2013年6月
- YAMASHITA Tetsuro, “The ontological genesis and structure of the theoretical attitude”, The 3rd GCOE International Symposium “Weaving

Science Web beyond Particle-matter Hierarchy”, Tohoku University
(Sendai), Feb 2011.

吉田哲也「フレーゲにおける思想と判断」第14回北日本哲学研究会、東北大学、
2012年1月

吉田哲也「フレーゲにおける述語」、東北哲学会第62回大会、於東北大学、2012
年10月

YOSHIDA Tetsuya, “Frege on Unsaturatedness” The 5th International GCOE symposium
on “Weaving Science Web beyond Particle-Matter Hierarchy”, Tohoku
University(Sendai), March 2013.

吉田哲也「フレーゲにおける思想の構造」、東北大学哲学研究会（『思索』発表会）、
於東北大学、2013年6月

3 大学院生・学部生等の受賞状況

山田圭一 日本倫理学会 和辻賞 2010年11月

4 日本学術振興会研究員採択状況

2010年度 DC2採用1名

2012～2013年度 DC2採用2名

2015年度 DC2採用1名

5 留学・留学生受け入れ

5-1 大学院生・学部学生等の留学数

年度	学部	大学院	計
10	1	0	0
11	0	0	0
12	0	0	0
13	1	0	1
14	1	0	1
15	0	0	0
計	3	0	2

5-2 留学生の受け入れ状況（学部・大学院）

年度	学部	大学院	計
10	2	0	2

11	2	0	2
12	2	0	2
13	2	0	2
14	0	0	0
15	1	0	1
計	9	0	9

6 社会人大学院生の受け入れ数

年度	前期課程	後期課程	計
10	0	0	0
11	0	0	0
12	2	1	3
13	0	0	0
14	0	0	0
15	0	0	0
計	2	1	3

7 専攻分野出身の研究者・高度職業人

7-1 専攻分野出身の研究者

千葉 胤久	北海道教育大学旭川校講師	2004年度
山本 史華	東北大学薬学研究科 COE 助手	2004年度
竹之内 裕文	東北大学文学研究科助手	2005年度
菅沼 聡	東北大学文学研究科助手	2006年度
竹之内 裕文	静岡大学農学部助教授	2006年度
張 政遠	香港中文大学講師	2007年度
山本 史華	東京都市大学准教授	2008年度
菅沼 聡	北海道教育大学函館校准教授	2008年度
齋藤 直樹	東北大学文学研究科助教	2008年度
齋藤 直樹	盛岡大学文学部准教授	2009年度
伊藤 周史	東北大学文学研究科助教	2010年度
山田 圭一	山形大学人文学部准教授	2010年度
井頭 昌彦	一橋大学准教授	2011年度
千田芳樹	一関高等工業専門学校	2011年度
小笠原史樹	福岡大学人文学部准教授	2012年度

山田 圭一 千葉大学文学部准教授 2010年度
信太 光郎 東北大学文学研究科助教 2013年度
伊藤 周史 東北大学リーディング大学院助教 2013年度
信太 光郎 東北学院大学言語文化学科准教授 2014年度
佐藤 駿 東北大学文学研究科助教 2015年度

7-2 専攻分野出身の高度職業人

2012年度 出版社 1名

8 客員研究員の受け入れ状況（2010年度～2015年5月20日）

なし

9 外国人研究者の受け入れ状況（2010年度～2015年度）

ジェナン・イスマエル（アリゾナ州、インディアナ大学准教授）2010年2月
張政遠（香港中文大学）2010年7月
林永強（香港教育学院）2011年2月
苑挙正（台湾大学）2011年2月
張政遠（香港中文大学）2011年2月
ジョヴァンニ・フェラーリ（カリフォルニア大学バークレイ校教授）2010年8月
スザヌ・オブドルジャレク（クレアント・マッケナ・カレッジアシスタント・プロフェッサー）2010年8月
ピーター・クロース（デルフト工科大学）2012年2月
ルカ・デル・フラータ（デルフト工科大学）2012年2月
ウルリッヒ・シュタインフォルト（ハンブルク大学、ビルケント大学）2012年6月
ジョヴァンニ・フェラーリ（カリフォルニア大学バークレイ校教授）2012年5月
グンター・ゲバウアー（ベルリン自由大学哲学教授）2012年3月
オギュスタン・ベルク（フランス国立社会科学高等研究院）2012年3月
張政遠（香港中文大学）2012年3月
林永強（香港教育学院）2012年3月
遊佐道子（西ワシントン大学）2012年3月

潘文慧（香港教育学院）2012年3月

アンドリュー・スターリング（サセックス大学SPRU）

八木沢敬（カリフォルニア大学ノースリッジ校教授）2012年7月

ピーター・マクレラン（オーストラリアNSW州最高裁英米法首席判事）、2012年8月

ドロテ・ルグラン（フランス国立科学研究センター（CNRS）研究員）2013年8月

トーマス・アルケマイアー（カール・フォン・オシエツキー大学教授）2014年6月

パウル・ツィーヘ（ユトレヒト大学）2015年9月

10 刊行物

『思索』（東北大学哲学研究会） 年刊

『モラリア』（東北大学倫理学研究会） 年刊

『東北哲学会年報』（東北哲学会） 年刊

11 学会・研究会・講演会・シンポジウム等の開催・事務局等引き受け状況

2010年度 科学研究費基盤B「科学技術における討議倫理のモデル構築」第1回研究会「理論家と実践者の対話I」7月17日、18日

2010年度 科学研究費基盤C「プラトンにおける「死後の神話」の哲学的意義の国際的研究」公開シンポ 8月10日

2010年度 科学研究費基盤B「科学技術における討議倫理のモデル構築」第1回研究会「理論家と実践者の対話II」10月3日

2010年度 学会 東北哲学会 第62回大会 2012年10月23日、24日

2010年度 第3回国際シンポジウム 東北大学GCOEプログラム「物質階層を紡ぐ科学フロンティアの新展開」 2月17日～18日、公開講演会 2月19日

苑挙正氏（台湾大学）For or Against Scientific Realism: E. McMullin, B. van Fraassen and J. Ladyman

林永強氏（香港教育学院）Hermeneutics of “between”: on Watsuji Tetsurō’s Fūdo

張政遠氏（香港中文大学）Modernising Japan: A philosophical reflection on “Japanese technology”

2011年度 KNS研究会 「プラトンにおけるアイデア認識は、直知によるのか？」（金山）7月13日

- 2011年度 「カフェ・シリーズ“震災を忘れず、忘れられないために” 第1回哲学者に聞く」(講師:野家啓一、ファシリテータ:長神風二) 7月27日
- 2011年度 科学研究費基盤B「科学技術における討議倫理のモデル構築」第1回研究会
「原子力工学分野におけるSTS的コミュニケーションの可能性」(神里達博)
「原子力についての対話とは」(直江清隆)
「対話フォーラムにおける公正さについての一考察」(荻原理)
- 2011年度 第1回自然主義研究会 講演「自然主義の体系化プログラムとしての自然種の理論」(植原亮)、合評会 井頭昌彦著『多元論的自然主義の可能性』をめぐって(井頭昌彦、佐藤駿、成瀬尚志、植原亮) 2012年1月7日
- 2011年度 「カフェ・シリーズ“震災を忘れず、忘れられないために” 第2回地震学者に聞く——期待と予測、反省と次をめぐって」(講師:瀬藤一起、ファシリテータ:長神風二) 1月12日
- 2011年度 「カフェ・シリーズ“震災を忘れず、忘れられないために” 第3回倫理学者に聞く 傍らで暮らすこと——原子力発電所事故と倫理」(講師:本田康二郎、ファシリテータ:長神風二) 2月23日
- 2011年度 第4回国際シンポジウム 東北大学GCOEプログラム「物質階層を紡ぐ科学フロンティアの新展開」 2月20日~22日、公開講演会 2月21日
Peter Kroes (Delft University of Technology)
"The creation of physical phenomena and of technical artefacts"
Shigeyuki Aoki (University of Aizu)
"Philosophy of Science Useful for Scientists?"
Luca del Frate (Delft University of Technology)
"Failure of engineering artefacts: a life cycle approach"
- 2011年度 技術の哲学ワークショップ (Workshop on Philosophy of Technology)、2月22日
Peter Kroes 氏 (Delft University of Technology)
"Engineering and the dual nature of technical artefacts"
村田純一氏 (立正大学)
"The question concerning technology: What should we learn from the accident of the nuclear power station in Fukushima?"
直江清隆氏 (東北大学)

"Technological mediation and artefacts"

特定質問者: 金光秀和 (金沢工業大学)、鈴木俊洋 (上智大学)

2011年度 国際シンポジウム : 大震災と価値の創生 (International Conference: Disaster and the Creation of Value System)

3月9日 基調講演: オギュスタン・ベルク / 特別講演: 竹内整一 / 一般発表: 張政遠、林永強

3月10日 一般発表: 遊佐道子、ハンス・ペーターリーダーバッハ、潘文慧、直江清隆、田口茂 / 特別講演: 鈴木岩弓 / 対談: 野家啓一、川本隆史 / ポスター発表

2011年度 講演会 3月23日

グンター・ゲバウアー (Gunter Gebauer) (ベルリン自由大学哲学教授)

Aspect-seeing. On the creativity of human language (アスペクト視: 人間の言語における創造性について)

2011年度 大震災と価値の創生 (International Conference: Disaster and the Creation of Value System) 東北大学大学院文学研究科・香港教育学院主催 東北大学、2012年3月9日

2012年度 第36回フッセル・アーベント、講師: ウルリッヒ・シュタインフォルト (ハンブルク大学、ビルケント大学) "Remarks on Wittgensteinian contributions to the understanding of mental phenomena". 6月2日

2012年度 現代哲学研究会開催 (講師: 八木沢敬、山田圭一)

2012年度 GCOEセミナー リスク論に関するセミナー

Andrew Stirling教授 (サセックス大学SPRU)

Ambiguous Evidence: implications of uncertainty for science policy and expert evidence

Peter McClellan オーストラリアNSW州最高裁英米法首席判事(Supreme Court of New South Wales)

Concurrent evidence - contemporary methods with experts.

東北大学GCOEプログラム「物質階層を紡ぐ科学フロンティアの新展開」および科研費基盤(B), 「自然観の展開と人間的営為の運命に関する思想的・応用倫理学的研究」 2012年8月28日

2012年度 研究会 「自然主義とハイデガー1」 合評会 信太光郎著『死すべきものの自由——ハイデガーの生命の思想』をめぐって (信太光郎、齋藤元紀、池田準、山下哲郎)、池田喬著『ハイデガー 存在と行為』をめぐって

(池田喬、信太光郎、原塑、齋藤元紀) 2012年9月17日

2012年度 学会 東北哲学会 第62回大会 2012年10月20日、21日

2012年度 学会 日本現象学会 第34回研究大会 2012年11月17日、18日

2013年度 第37回フッセル・アーベント、5月25日、講師：齋藤元紀氏(高千穂大学人間科学部教授)「喪われた世界への回帰——現存在の形而上学における超越論的現象学の転回とその帰趨」

2013年度 研究会「自然主義とハイデガー2」、合評会 齋藤元紀著『存在の解釈学—ハイデガー『存在と時間』の構造・転回・反復』(池田喬、信太光郎、山下哲郎)、5月26日

2013年度 第2回自然主義研究会：ギャラガー&ザハヴィ『現象学的な心』合評会(植村玄輝、原塑、吉田正俊)(一橋大学にて実施)

2013年度 Dorothee Legrand 連続講演会 The Subjected Body (2013年8月22日、23日、27日、28日)

2013年度 学会 東北哲学会第63回大会、2013年10月26日、27日

2014年度 研究会「数学の現象学」合評会 鈴木俊洋著『数学の現象学』(野家伸也、富山豊、越後正俊)、2014年7月6日

2014年度 講演会「ケアの現象学」講師：榊原哲也氏(東京大学人文社会系研究科教授)、2014年7月9日

2014年度 講演会「Romantik, Realismus und Idealismus」講師：パウル・ツィーヘ氏(ユトレヒト大学)、2014年9月29日

2014年度 学会 東北哲学会第64回大会 2014年10月25日、26日

2015年度 研究会：梶尾悠史『フッサールの志向性理論』佐藤駿『フッサールにおける超越論的現象学と世界経験の哲学』合同合評会、2015年2月21日

2015年度 学会 応用哲学会 第七回年次研究大会、2015年4月25日、26日

学会 科学技術社会論学会 第15回年次研究大会、2015年11月21日、22日

1.2 専攻分野主催の研究会等活動状況(2010年度～2015年5月20日)

2010年度 第34回フッセル・アーベント開催(講師：田口茂)

2011年度 第35回フッセル・アーベント開催(講師：竹内整一)

2012年度 第36回フッセル・アーベント開催(講師：ウルリッヒ・シュタインフォルト)

2013年度 第37回フッセル・アーベント開催(講師：齋藤元紀)

2014年度 第38回フッセル・アーベント開催(講師：トーマス・アルケマイア)

一)

13 組織としての研究・教育活動に関する過去5年間の自己点検と評価

本専攻分野は、西洋哲学の文献研究を核としながら、現代の状況に対応すべき様々な領域での研究・教育活動を推し進めてきた。教員は、座小田豊教授、直江清隆、荻原理、原塑の3名の准教授と助教の信太光郎である。12年度末をもって野家啓一教授(08～11年は本学理事と併任)が定年となり、それ以前からの欠員もあって、教員の補充が急がれるところである。

研究面では、倫理学専攻分野と連携し哲学講座として、現象学を中心とする「フッセルアーベント」や夏冬の公開講演などを恒例の行事として毎年開催し、内外の研究者と交流を図ってきている。こうした伝統的な研究活動に加え、ここ10年間は「人間の21世紀的 Well-being 研究プロジェクト」として、科学研究費補助金や人文社会科学振興プロジェクト研究活動を行ってきた。最近では、社会学、地理学、農業経済学、科学コミュニケーション論などの専門家と共同で、「科学技術における討議倫理のモデル構築」「自然観の展開と人間的営為の運命に関する思想的・応用倫理学的研究」といった研究を継続的に行い、順調に成果を上げてきている。また、本学理学研究科のグローバルCOE「物質階層を紡ぐ科学フロンティアの新展開」に積極的に参加し、文理の垣根を越えた学際的な研究活動をすると同時に、国際的なシンポジウムやセミナーの開催などを通じて、より国際的な場での活躍へ向けた活動を展開してきた。さらに、研究成果の社会的還元についても一定の成果を挙げてきているが、この点については今後さらに展開する可能性がある。

教育活動としては、学部教育では、とりわけ、古典的なテキストをていねいに読み、論議することを通じて、問題意識をもって自ら課題を設定し、自分の考えを論理的に展開できる能力の養成することを目標にしている。年度によりいくぶん多寡はあるが、学部学生同士の、あるいは学部学生と大学院生の読書会もよく開かれている。

大学院生については恒常的に発表の場を設け、大学院生相互の討論の機会をもたせることにより、文献読解と同時に、哲学的なディスカッションの能力を育成することを目指してきた。また、博士後期課程の学生については、従来から『思索』(査読つき)、『モラリア』、『東北哲学会年報』(査読つき)など投稿する機会を数多く設けてきたが、上記グローバルCOEの活動を通じ、英語での学会発表や国内学会での発表や参加が増加した。今後、プログラムの終了に伴い、この傾向をいかにして維持するかは課題である。昨年度から、リーディング大学院プログラム・複合領域型(安全安心)「グローバル安全学トップリーダー育成プログラム」にも「安心安全に生きる」のユニットに参加して

いるが、こうした場の活用もその一つの候補となり得よう。博士の学位授与は毎年 2 名程度であり、比較的順調に推移している。また、日本学術振興会特別研究員も恒常的に出している。ただ、学位取得までの年限が長い傾向があることや、博士後期課程への進学者が近年やや減少気味であることに対しては、指導を強化して改善を図る余地があると考えられる。大学院修了後の就職であるが、博士後期課程の学生については毎年 1 ～ 3 名が研究職に就いており、全国的に哲学分野の就職が厳しい状況になってきているなかで、かなり健闘していると言える。

Ⅲ 教員の研究活動（2010～2015 年度 5 月 20 日）

1 教員による論文発表等

1-1 論文

- 野家啓一「物語り論（ナラトロジー）の射程」、『経営思想研究への討究—学問の新しい形—』、村田晴夫・吉原正彦（編）、文眞堂、pp.3～30、2010 年 4 月
- 野家啓一「科学哲学における事実と理論」、『要件事実論と基礎法学』、伊藤滋夫（編）、日本評論社、pp.261～305、2010 年 7 月
- 野家啓一「主観と客観のあいだ」、『認識と運動における主体性の数理脳科学』、高等研報告書 0905、国際高等研究所、pp.82～114、2010 年 8 月
- 野家啓一「科学・形而上学・物語り—ホワイトヘッド『科学と近代世界』再読—」、『プロセス思想』第 14 号、日本ホワイトヘッド・プロセス学会、pp.9～30、2010 年 9 月
- 野家啓一「覚醒倫理への道—今村仁司『親鸞と学的精神』をめぐって—」、『モラリア』第 17 号、東北大学倫理学研究会、pp.1～22、2010 年 10 月
- 野家啓一「〈場所〉と〈あいだ〉：知の統合への哲学的アプローチ」、『横幹』Vol.4 No.2、横断型基幹科学技術研究団体連合、pp.81～88、2010 年 10 月
- 野家啓一「フッサール学問論の現代的射程」、『哲学雑誌』第 124 巻第 796 号、哲学学会編、pp.83～100、2010 年 10 月
- 野家啓一「哲学とは何か—科学と哲学のあいだ—」、『日本の哲学』第 11 号、日本哲学史フォーラム編、pp.8～22、2010 年 12 月
- 野家啓一「21 世紀の科学と哲学」、社会技術研究開発センター（編）『科学技術と知の精神文化Ⅱ』丸善プラネット、pp.74～87、2011 年 3 月
- 野家啓一「日本語で哲学するということ—坂部恵の詩と哲学」、別冊水声通信『坂部恵—精神史の水脈を読む』水声社、pp.127～142、2011 年 6 月

- 野家啓一「大震災とリスク社会」、『學鏡』第108巻第2号、丸善、pp.26~29、2011年9月
- 野家啓一「〈質的空間〉の復権」、『日本オフィス学会誌』第3巻第2号、日本オフィス学会、pp.4~6、2011年10月
- 野家啓一「見るものから働くものへ—黒田哲学と大森哲学—」、『哲学雑誌』第126巻第798号、有斐閣、pp.45~63、2011年11月
- 野家啓一「〈今を生きる〉ということ」、座小田豊・尾崎彰宏（編）『人間として』東北大学出版会、pp.3~15、2012年3月
- Keiichi Noe, “Hermeneutic Problems in the Philosophy of Science”, in *De l’hermeneutique philosophique a l’hermeneutique du texte*, Graduate School of Letters, Nagoya University, pp.11~18, Mar. 2012.
- 野家啓一「〈実りある不一致〉のために」、『学術の動向』第17巻第5号、日本学術会議、pp.46~50、2012年5月
- 野家啓一「〈歴史の物語り論〉への批判と反批判」、『立正大学人文科学研究所年報』、別冊第18号、立正大学人文科学研究所、pp.61~70、2012年9月
- Keiichi Noe, “The Great Earthquake Disaster and Japanese View of Nature”, *Proceedings of the International Conference: Japanese Philosophy in the East Asian Perspective*, Institute for the Advanced Studies in Humanities and Social Sciences, Taiwan National University, pp.1~9、Sept. 2012.
- 野家啓一「〈歴史の物語り論〉のための弁明」、『思索』第45号、2012年10月
- 野家啓一「物語る自己/物語られる自己」、『〈自己〉と〈他者〉』（木村敏・野家啓一監修）河合文化教育研究所、2013年1月
- 野家啓一「科学技術の受容と日本文化の特質」、社会技術研究開発センター(編)『科学技術と知の精神文化 IV』丸善プラネット、2013年1月
- 野家啓一「iPS細胞と生命倫理」、『学術の動向』第18巻第2号、2013年2月
- 座小田豊 「ヘーゲル哲学における神の思想」（『フィロソフィア・イワテ』岩手哲学会、第42号、2010年11月）37-50
- 座小田豊 「共有知としての「良心」についての一考察——「良心」は誰のものか？」（栗原隆編『共感と感応』東北大学出版会、2011年4月）77-103頁
- 座小田豊 「「媒語」としての精神の可能性について」（『ヘーゲル哲学研究』日本ヘーゲル学会編、2011年12月）61-65頁
- 座小田豊 「「人間として」問いかけること」（『今を生きる——東日本大震災

- から明日へ！第1巻 人間として』（座小田・尾崎編、東北大学出版会）2012年3月、iii～xxvi頁
- 座小田豊 「精神の生活—「喪われた者たち」の「記憶」と「ふるさと」の根源的な力について—」同上
- 座小田豊 「共通知としての「良心」——その始まりと神の問題——」（栗原隆編『世界の感覚と生の気分』ナカニシヤ出版、2012年3月）66-85頁
- 座小田豊 「「ふるさと」の根源的な力と想像力の可能性」（『防災と復興の知—3. 11以後を生きる』大学出版部協会、2014年6月）4-28頁
- 座小田豊 「「ふるさと」から「ふるさと」へ」同前 68-77頁
- 座小田豊 Unendlichkeit und Negativität – über die Entstehung der Philosophie des Geistes in Hegels Jenaer Systementwürfen , in: *Hegel in Japan*, hrsg. von Y. Kubo, S. Yamaguchi und L. Knatz, Münster 2014 (in Vorbereitung)
- 座小田豊 「無限性と否定性——ヘーゲル「イェーナ体系構想」における「精神哲学」の成立について——」『思索』（東北大学哲学研究会）第47号 2014年10月
- 座小田豊 「承認と労働—ヘーゲルの『イェーナ精神哲学』における「媒語」の意義について—」（『ヨーロッパ研究』（東北大学国際文化研究科ヨーロッパ文化論講座刊）第10号、2015年2月
- 座小田豊 「「私」と「私」の間に—「彼方への眼差し」を可能にするもの—」、座小田・栗原共編『生の倫理と世界の論理』東北大学出版会、2015年3月
- 座小田豊 「『自然』の根源性と『ふるさと』の可能性について—ヘーゲルのイェーナ「自然哲学」構想を手掛かりに—」座小田豊編『自然観の変遷と人間の運命』東北大学出版会、2015年6月
- 直江清隆『薬学生のための医療倫理』松島哲久、盛永審一郎編、丸善出版、2010年4月。
- 直江清隆「高橋里美の包弁証法」『ヘーゲル研究』2010年12月、p.98-105.
- 直江清隆「レーヴィット再論のために」『東北哲学会年報』27号、p.63-77, 2011年3月
- 直江清隆「技術者倫理から技術の倫理へ」『技術倫理と社会』第6号、2011年4月、p.105-115.
- 直江清隆「人工物と知識」『思索』第44号、2011年10月、p.1-29.
- 直江清隆「科学・技術論」小坂國継・本郷均編『概説 現代の哲学・思想』ミネ

- ルヴァ書房、2012年4月、p.316-336.
- 直江清隆「遺伝と環境」『シリーズ生命倫理学』第11巻、丸善出版、2013年1月、pp.46-64.
- 直江清隆 『価値と技術の現象学』（博士論文、東北大学大学院文学研究科）
2013年3月
- 直江清隆「技術哲学と〈人間中心的〉デザイン」、佐々木正人、村田純一、河野哲也編『知の生態学的転回2 技術』、東京大学出版会、2013年7月、pp.259-285。
- 直江清隆『教養としての応用倫理学』盛永審一郎、浅見昇吾編、丸善出版、2013年9月
- 直江清隆 「思想史における技術」、『社会思想史年報』第37号、藤原書店、2014年9月、p.24-42
- 直江清隆 「科学・技術システムと責任の問題」、山脇直司編『技術と社会の統合による教育』東京大学出版会、2015年1月、p.155-174
- 直江清隆 「自然という「他者」と技術的行為」、座小田豊編『自然観の変遷と人間の運命』東北大学出版会、2015年6月、p.233-263
- Satoshi Ogihara, 'The Contrast between Soul and Body in the Analysis of Pleasure in the Philebus', in John Dillon, Luc Brisson (eds.), *Plato's Philebus: Selected Papers from the Eighth Symposium Platonicum*, Academia Verlag, 2010, pp. 215-220.
- 荻原理「ジョヴァンニ・フェラーリの『ポリテイア』解釈の一端」『理想』、686号、24-35頁、2011年
- 荻原理「マイケル・スミスにしたがって——動機づけについての弱い内在主義の擁護——」『倫理学年報』、第60集、57～60頁、2011年
- 荻原理「中畑のマクダウェル理解について」『メトドス』、第43号、32～36頁、2011年
- 荻原理「プラトン『法律』第10巻903a-905dの、神による魂の再配置の話について」『ギリシャ哲学セミナー論集』（インターネット版）、Vol. IX、36～53頁、2012年
- Satoshi Ogihara, 'The Chice of Life in the Myth of Er', in *Plato: The Internet Journal of the International Plato Society*, Vol. 11, 2012 (no pagination)
- 荻原理「中畑の応答を受けて」『メトドス』、第45号、59～61頁
- 荻原理「シンポジウム「中世におけるプラトニズムⅡ——トマス・アクィナスおよびイスラーム」提題 トマスの存在理解をめぐる上枝氏の提題に寄せて、

- 中世思想研究、査読有、55号、107-117頁、2013年
- 荻原理「中畑正志『魂の変容——心的基礎概念の歴史的構成』（岩波書店、2011年）第Ⅲ章「＜感情＞の理論、理論としての＜感情＞」へのコメント」、モラリア、第20・21合併号、302-311頁、2014年
- 荻原理「「プラトンらと無限」、シンポジウム『『無限』概念の変遷——プラトンからクザーヌスまで——』提題、新プラトン主義研究、pp. 15-21、2015年
- 荻原理「地震などによる災害を天罰とみる見方について」、座小田豊編『自然観の変遷と人間の運命』東北大学出版会、2015年6月（印刷中）
- 原塑、鈴木貴之、坂上雅道、横山輝雄、信原幸弘「大学における教養教育を通じた脳神経科学リテラシーの向上～ポスト・ノーマル・サイエンスとしての脳神経科学とその科学リテラシー教育～」『科学技術コミュニケーション』第7号、105頁～118頁、2010年
- 原塑、状態空間意味論：脳はどのように世界を表象するのか？』『思索』第42号、1頁～30頁、2010年
- 原塑「脳神経科学リテラシーに向けて」信原幸弘、原塑、山本愛実編著『脳神経科学リテラシー』、勁草書房、1頁～17頁、2010年
- 原塑「知覚：環境変化の見落としについて」信原幸弘、原塑、山本愛実編著『脳神経科学リテラシー』、勁草書房、21頁～36頁、2010年
- 原塑「信頼：社会性の神経経済学」信原幸弘、原塑、山本愛実編著『脳神経科学リテラシー』、勁草書房、125頁～142頁、2010年
- 原塑、永岑光恵「加齢：認知機能の変容」信原幸弘、原塑、山本愛実編著『脳神経科学リテラシー』、勁草書房、241頁～259頁、2010年
- 原塑「広告利用：脳トレ広告にみる脳神経科学言説の信頼性」信原幸弘、原塑、山本愛実編著『脳神経科学リテラシー』、勁草書房、261～286頁、2010年
- 原塑「意図的行為は理由の空間に含まれるのか？ 意図的行為における因果・表現・制御」、『共生の現代哲学:門脇俊介記念論集』、The University of Tokyo Center for Philosophy、11～32頁、2011年
- 原塑「刑法における嫌悪感情の役割と社会脳——リーガル・モラリズムと嫌悪感情——」、芋坂直行編『社会脳シリーズ 第2巻 社会意識を育む——神経哲学と神経倫理学——』新曜社、183～217頁、2012年
- 原塑「刑法と感情：感情による法的判断の正当化」、『感情心理学研究』第21巻、第2号、感情心理学会、49～54頁、2014年6月

原塑「存在論的カテゴリーとしての道具、事物、現存在~池田喬『ハイデガー 存在と行為：『存在と時間』の解釈と展開』（2011年、創文社）を読む~」、『モラリア』第20・21合併号、130~149、2014年10月

原塑「トランス・サイエンス概念と科学技術的意思決定への市民参加」、座小田豊編著『自然観の変遷と人間の運命』、東北大学出版会、2015年（印刷中）

原塑「対話型科学コミュニケーションと科学者の社会的責任」、日本倫理学会編『倫理学年報』第64集、2015年（印刷中）

1-2 著書・編著

野家啓一 『科学技術と知の精神文化Ⅱ』（共著）、丸善プラネット、2011年3月

野家啓一 『数学者の哲学+哲学者の数学』（共著）、東京図書、2011年11月

座小田豊（共編著） 『今を生きる——東日本大震災から明日へ！第1巻 人間として』（尾崎彰宏と共編著、東北大学出版会）2012年3月

座小田豊（共著） 『ヘーゲル『精神現象学』入門』（加藤尚武編）講談社学術文庫、2012年5月

座小田豊（共著）『防災と復興の知——3. 11以後を生きる』（田中克、川崎一郎と共著）大学出版部協会、2014年6月

座小田豊（編）『自然観の変遷と人間の運命』東北大学出版会、2015年6月

直江清隆・越智貢編『生きたとは』（『高校倫理からの哲学』第1巻）岩波書店、2012年7月

直江清隆・越智貢編『災害に向きあう』（『高校倫理からの哲学』別巻）岩波書店、2012年7月

直江清隆・越智貢編『正義とは』（『高校倫理からの哲学』第3巻）岩波書店、2012年8月

直江清隆・越智貢編『自由とは』（『高校倫理からの哲学』第4巻）岩波書店、2012年9月

直江清隆・越智貢編『知るとは』（『高校倫理からの哲学』第2巻）岩波書店、2012年10月

直江清隆・盛永審一郎編『理系学生のための科学技術倫理』丸善出版、2015年5月

Richard Patterson ら編、Satoshi Ogihara ら著、*Presocratics and Plato, Parmenides*
Publishing, 2012 年

信原幸弘、原塑、山本愛実編著『脳神経科学リテラシー』、勁草書房、2010 年

伊藤周史、齊藤直樹、菅原潤編『21 世紀の哲学史——明日をひらく知のイメージ』
昭和堂、2011 年

信太光郎『死すべきものの自由——ハイデガーの生命の思考』、東北大学出版会、
2011 年 12 月

佐藤 駿『フッサールにおける超越論的現象学と世界経験の哲学』東北大学出版会、
2015 年 1 月

1-3 翻訳、書評、解説、辞典項目等

野家啓一「爽やかに筋を通す人—大塚和夫さんを偲ぶ—」、『Field+』第 3 号、東
京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所、2010 年 1 月

野家啓一「読書アンケート」、『みすず』、みすず書房、2010 年 1 月

野家啓一「書評：合庭惇『ハイデガーとマクルーハン』」、『週刊読書人』第 2825
号、2010 年 2 月

野家啓一「巻頭言：論理と感性のあいだ」、『Newsletter』第 12 号、慶応大学グロ
ーバル COE プログラム論理と感性の先端的教育研究拠点、2010 年 6 月

野家啓一「アヤちゃんの白い下穿き」、『車谷長吉全集』第 1 巻「月報」、新書館、
2010 年 6 月

野家啓一「人間的自由の行方—高山守『因果論の超克』に寄せて」、『UP』第 452
号、東京大学出版会、2010 年 6 月

野家啓一「書評：中山元『フーコー生権力と統治性』／金森修『<生政治>の哲
学』」、『読売新聞』2010 年 6 月 6 日

野家啓一「インタビュー：文系・理系の垣根を越えて学び続けるために」、『まな
びのめ』第 9 号、笹気出版印刷株式会社、2010 年 7 月

野家啓一「書評：貫成人『歴史の哲学』勁草書房」、『週刊読書人』2010 年 12 月

野家啓一・木村敏「対談：中動態という場をめぐる」、『空間と時間の病理』河
合文化教育研究所、2011 年 1 月

野家啓一「読書アンケート」、『みすず』、みすず書房、2011 年 1 月

野家啓一「インタビュー：専門分化した知識の統合を」、『U 7』第 36 巻、学士会、
2011 年 2 月

野家啓一「『3・11』とは何か：人々の意識を変える大きな転換点」、『西日本新
聞』2011 年 4 月 12 日

野家啓一「巻頭言：大震災のただ中で」、『日本学術会議第一部 Newsletter』第 21
期第 7 号、2011 年 6 月

野家啓一・鈴木厚人「対談：震災復興と研究教育と社会貢献への思い」、『Sciencweb』

第 11 号、2011 年 6 月

- 野家啓一「書評：和合亮一『詩の礫』／『詩の黙礼』／『詩の邂逅』」、『読売新聞』
2011 年 7 月 3 日
- 野家啓一・阿部恒之「特別対談：“東北地方太平洋沖地震”に直面して改めて言葉
の力について考えた」、『考えるということ』第 6 号、東北大学文学部、2011
年 7 月
- 野家啓一「大震災とともに考える」、『今こそ、学問の話をしよう』学校法人河合
塾・教育研究部、2011 年 7 月
- 野家啓一「大震災のなかの読書」、『図書』岩波書店、2011 年 8 月号
- 野家啓一「大震災を語り継ぐ×柳田國男」、『読売新聞』2011 年 10 月 10 日
- 野家啓一「大震災のなかの図書館」、『Library News』第 15 号、丸善、2011 年 10
月
- 野家啓一「大震災以後の科学技術と人材育成」、『IDE 大学セミナー／東北大学
高等教育フォーラム報告書』、2011 年 11 月
- 野家啓一「大学と科学者の社会的責任」、『現代思想』第 39 巻第 18 号、2011 年 12
月
- 野家啓一「大震災と古本屋」、『文藝家協会ニュース』第 719 号、日本文藝家協会、
2011 年 12 月
- 野家啓一「書評：鈴木和成訳『ランボー全集／個人新訳』みすず書房」、『読売新
聞』2011 年 12 月 4 日
- 野家啓一「書評：西郷信綱著作集第 6 巻『詩の発生』平凡社」、『読売新聞』2011
年 12 月 18 日
- 野家啓一「2011 年の 3 冊」、『読売新聞』2011 年 12 月 25 日
- 野家啓一「読書アンケート」、『みすず』、みすず書房、2012 年 1 月
- 野家啓一「過去はどこへも行かず、＜物語り＞の中に在る」、『Dream Navi』四谷
大塚出版、2012 年 1 月
- 野家啓一「ユウレイ先生と原発事故」、『化学』第 729 号、化学同人、2012 年 2 月
- 野家啓一「哲学リテラシーの必要性」、『中等教育資料』第 909 号、文部科学省教
育課程課、2012 年 2 月
- 野家啓一「半歩遅れの読書術（3 回連載）」、『日経新聞』2012 年 3 月 4 日、3 月 11
日、3 月 18 日
- 野家啓一「空想書店：東北の底力」、『読売新聞』2012 年 3 月 11 日
- 野家啓一「インタビュー：震災を転機として」、河合塾（編）『ポスト 3. 11 変
わる学問』朝日新聞出版、2012 年 3 月
- 野家啓一「東北の地から①～⑩」、『書斎の窓』巻頭言、有斐閣、2012 年 4 月～2013
年 3 月
- 野家啓一・鷺田清一ほか「座談会：ポスト 3. 11 の応用哲学」、戸田山和久ほか
（編）『これが応用哲学だ』大隅書店、2012 年 5 月
- 野家啓一「推薦文：いま必要な『哲学力』を養う」、直江清隆・越智貢（編）『高
校倫理からの哲学』パンフレット、岩波書店、2012 年 5 月
- 野家啓一「ゆかりの人々：私の著書 3 冊」、『KIBOKO』東北大学附属図書館報第
37 巻第 2 号、2012 年 6 月
- 野家啓一「書評：ジェイムズ・フレミング『気象を操作したいと願った人間の歴

史』、『日経新聞』2012年7月29日
野家啓一「えらい人はくいる」のではなくくなる」のです』、『DreamNaVi』第3
巻第十号、四谷大塚出版、2012年11月
野家啓一「〈同化〉とく異化」の弁証法」、林永強・張政遠(編)『日本哲学の多様
性』世界思想社、2012年12月
野家啓一『現代社会学事典』(大澤真幸ほか1編)弘文堂、2012年12月、「ウィト
ゲンシュタイン」「クーン」「歴史」「歴史哲学」「歴史の分析哲学」の五項目
野家啓一「〈自己〉とく他者」(木村敏と対談)、『〈自己〉とく他者』河合文化教
育研究所、2013年1月
野家啓一「書評 佐藤徹郎ほか(編)『形而上学の可能性を求めて』(工作舎)、『図
書新聞』2013年3月9日

座小田豊 書評：久保陽一編『ヘーゲル体系の見直し』（理想社）2011年11月
27日、『図書新聞』2991号

座小田豊 翻訳（共訳）：ハンス・ブルーメンベルク『コペルニクス的宇宙の生
成 第3巻』（法政大学出版局）2011年10月（小熊正久・後藤嘉也と共訳）
全319頁

座小田豊 翻訳（共訳）：新装版 D・ヘンリッヒ『神の存在論的証明』（法政
大学出版局）2012年7月

座小田豊 翻訳（共訳）新版 ヘーゲル『イェーナ体系構想』（加藤尚武監修）
（法政大学出版局）2012年3月

座小田豊 辞典の項目：「主人と奴隷の弁証法」（『現代社会学事典』弘文堂）
2012年11月

直江清隆 「書評 田口茂著『フッサールにおける〈原自我〉の問題』、『読書人』
2010.6.25号。

直江清隆 「書評 カッシーラー『象徴形式の形而上学』、『読書人』2010.

直江清隆 翻訳『科学・技術・倫理百科事典』丸善、2011.

直江清隆、二瓶真理子「書評 デービス・ベアード著、松浦俊輔訳『もののかた
ちをした知識-実験機器の哲学』、『科学哲学』43-2号、2010、p.111-115。

直江清隆 編訳『科学・技術・倫理百科事典』（共訳）丸善、2012.1

直江清隆 翻訳 アクセル・ホネット『再配分か承認か？』（共訳）法政大学出版
局、2012年10月

直江清隆 報告「原発に対して倫理学は何を言えるのか」（福永真弓、寺本剛、本
田康二郎と共著）『倫理学年報』第62集、68-77頁

直江清隆 項目翻訳『スクリブナー思想大事典』丸善出版（印刷中）

直江清隆 書評「フォージ著『科学者の責任 哲学的探求』（佐藤透、渡邊嘉男訳）」
（『週刊読書人』、2013年5月31日号）

直江清隆 翻訳 アクセル・ホネット『承認をめぐる闘争（増補版）』（共訳）法
政大学出版局、2014年7月

荻原理「書評 J・マクダウェル著『心と世界』」『週刊読書人』2012年5月25
日号

荻原理「書評 D・ウィギンズ『ニーズ・価値・真理』」『図書新聞』2014年11
月1日号

原塑 「書評 河野哲也著、『暴走する脳科学——哲学・倫理学からの批判的検討』
（光文社新書、2008年刊）」『科学哲学』44-2号、2011年、143～146頁

原塑 翻訳「社会参加教育」、「アシモフ」、「攻撃」、「モニタリングと監視」、科学・
技術・倫理百科事典翻訳編集委員会編『科学・技術・倫理百科事典』丸善、
2012年

原塑「脳神経科学リテラシー教育の実践報告」、日本科学哲学会ニューズレター、
第49号、1～3頁、2013年

原塑「科学・技術リテラシー：民主主義と国際競争力の基盤となる能力」、楠見孝・
道田対泰司編『ワードマップ 批判的思考：21世紀を生きぬくりテラシー
の基盤』新曜社、192～197頁、2015年1月

原塑「科学コミュニケーション：一方向型から対話型へ」、楠見孝・道田対泰司編
『ワードマップ 批判的思考：21世紀を生きぬくりテラシーの基盤』新曜
社、198～203頁、2015年1月

原塑「リーガルリテラシー：自らの法的権利を自覚する」、楠見孝・道田対泰司編
『ワードマップ 批判的思考：21世紀を生きぬくりテラシーの基盤』新曜
社、232～235頁、2015年1月

原塑「トランスサイエンス：科学によって答えることができない問い」、楠見孝・
道田対泰司編『ワードマップ 批判的思考：21世紀を生きぬくりテラシー
の基盤』新曜社、254～257頁、2015年1月

原塑 翻訳 トーマス・メッツィンガー『エゴ・トンネル』（鹿野祐介との共訳）岩
波書店、印刷中

1-4 口頭発表

国内学会等

野家啓一 講演「物語り論（ナラトロジー）からの眺望」、立正大学「歴史・社会叙述とテキスト研究会」、2010年3月13日、立正大学人文科学研究所

野家啓一 講演「科学技術と社会技術」、平成22年度宮城県高等学校理科研究会総会、2010年5月7日、仙台市民会館小ホール

野家啓一 提題発表「文系大学院の現状と課題」、東北大学高等教育開発推進センター主催シンポジウム「大学教員養成と大学院教育の課題」、2010年6月30日、仙台国際センター

野家啓一 提題発表「覚醒倫理への道程—今村社会哲学と親鸞—」、無限洞主催シンポジウム「今村社会哲学と仏教—『親鸞と学的精神』をめぐって」、2010年7月8～9日、泉ヶ岳やまぼうし

野家啓一 提題発表「哲学的思考の特質—自然主義に抗して—」、科学研究費補助金研究会「哲学的思考の特質と哲学教育のあり方」、2010年8月26日、専修大学神田校舎

野家啓一 コメンテーター、東北中世史サマーシンポジウム「カミと王の呪縛—人々を統合するもの—」、2010年8月29日、仙台市戦災復興記念会館

野家啓一 提題発表「見るものと見られるもの—黒田哲学と大森哲学—」、哲学会シンポジウム「黒田哲学再考」、2010年10月31日、東京大学文学部

野家啓一 提題発表「物語る自己／物語られる自己」、河合臨床哲学シンポジウム「自己—語りとしじま」、2010年12月11日、東京大学鉄門記念講堂

野家啓一 講演「生命倫理の考え方」、2011年2月23日、宮城県がんセンター

野家啓一 サイエンスカフェ講師「“震災を忘れず、忘れられないために” 第1回哲学者に聞く」（ファシリテータ：長神風二）2011年7月27日

野家啓一 提題発表「緩和医療におけるEBMとNBM：科学哲学の視点から」、緩和医療学会シンポジウム「緩和ケアにおけるEBMの意義と限界」、2011年7月29日、ロイトン札幌

野家啓一 招待講演「大震災と科学技術」、土木学会トークサロン、2011年9月12日、土木学会講堂

野家啓一 講演「大震災以後の科学技術と人材育成」、IDE大学セミナー／東北大学高等教育フォーラム、2011年11月18日、仙台ガーデンパレス

野家啓一 基調講演「現代を生きる柳田國男」、柳田國男五十年祭記念シンポジウム、2011年11月19日、東北大学

野家啓一 招待講演「科学哲学における解釈学的諸問題」、名古屋大学GCOEプログラム第13回国際研究集会「哲学的解釈学からテキスト解釈学へ」、2011年12月9日、名

古屋大学

野家啓一 コメンテーター「他者の諸相、他性の諸相」、第11回河合臨床哲学シンポジウム、2011年12月11日、東京大学鉄門記念講堂

野家啓一 招待講演「未来世代への責任」、大学教育改革フォーラム in 東海、2012年3月3日、名古屋大学

野家啓一・川本隆史「対談：大震災以後の〈物語り〉と〈ケア〉」、国際シンポジウム「大震災と価値の創生」、2012年3月10日、東北大学

野家啓一 講演「科学論の現在—from science to trans-science—」、東京大学エグゼクティブ・マネジメント・プログラム（第7期）、2012年4月20日、伊藤国際学術研究センター

野家啓一 講演「歴史と記憶—大震災以後を生きる—」、桐光学園特別授業、2012年4月28日、桐光学園講堂

野家啓一 講演「科学哲学と科学コミュニケーション」、東京大学大学院教育学研究科、2012年5月25日、東京大学

野家啓一 提題発表「3.11以後の科学技術と人間」、総合人間学会シンポジウム、2012年5月26日、日本大学文理学部

野家啓一 司会・コメンテーター、シンポジウム「ウィトゲンシュタインをめぐって」、第59回日本病跡学会総会、2012年6月23日、東京藝術大学

野家啓一 提題発表「3.11以後の科学技術と倫理」、東北社会学会、2012年7月15日、山形大学

野家啓一 提題発表「大震災と知の統合」、日本学術会議「工学基盤における知の統合」シンポジウム、2012年7月27日、東京大学

野家啓一 提題発表「専門家と非専門家のあいだ」、科学研究費補助金研究会「哲学的思考の特質と哲学教育のあり方」、2012年8月21日、大阪大学

野家啓一 提題発表「大震災以後の科学技術と倫理 (Ver.2)」、学術文化同友会「アルスの会」/GCOE「物質階層を紡ぐ科学フロンティアの新展開」、2012年8月24日、東北大学

野家啓一 招待講演「物語り行為と自己制作」、経営革新研究会、2012年9月14日、日本生産性本部経営アカデミー

野家啓一「物語り行為による自己制作」東北哲学会第62回大会、2012年10月21日、東北大学

野家啓一「技術と制度的身体」日本現象学会第34回大会シンポジウム「技術の現象学」、2012年11月17日、東北大学

野家啓一「3.11以降の科学技術と社会」北日本哲学会、2013年1月13日、北海道大学

座小田豊 司会：シンポジウム「ヘーゲルとドイツ観念論」(日本ヘーゲル学会大会、2010年6月20日 法政大学市ヶ谷キャンパス)

座小田豊 第42回岩手哲学会大会における公開講演：「ヘーゲル哲学における神の思想」(2010年7月17日、岩手大学にて)

座小田豊 パネラー：大学出版部研修会シンポジウム「新たな成長モデルを求めて」、2011年9月29日 日本出版クラブ会館にて)

座小田豊 大学出版部協会50周年記念連続シンポジウム

新しい社会を拓く大学の力【第3回】防災と復興の知—3・11以後を生きる：講師(2013年9月28日)

直江清隆 ワークショップ提題「哲学の中の技術の知識・認識論」第2回応用哲学会、北海道大学、2010年4月24日。

直江清隆 ワークショップ司会・基調提題「高等学校の「哲学・倫理」教育で何をどのように教えるか—大学での哲学教育・教養教育と高校教育との連携に向けて」第69回日本哲学会大会 2010年5月16日 大分大学。

直江清隆 シンポジウムコメンテーター『高レベル放射性廃棄物の処分問題解決へ向けて』日本学術会議公開シンポジウム、日本学術会議講堂、2010年6月4日。

直江清隆 ワークショップ司会・提題「人工物の設計と工学知」第9回日本科学技術社会論学会、東京大学、2010年8月29日。

直江清隆 シンポジウム司会「K・レーヴィットの再評価：人間・歴史・自然」東北哲学会、東北大学、2010年10月24日

直江清隆 シンポジウム提題「市民教育の基礎としての哲学教育に向けて」日本学術会議公開シンポジウム『哲学・倫理・宗教教育はなぜ必要か』、日本学術会議講堂、2010年11月28日

直江清隆 シンポジウム司会「K・レーヴィットの再評価：人間・歴史・自然」東北哲学会、東北大学、2011年10月24日

直江清隆 講演「技術者倫理から技術の倫理へ」中部技術士会、2011年1月16日。

直江清隆 ワークショップ司会・提題「人工物の知識論(2)」第3回応用哲学会、千葉大学、2011年4月24日。

直江清隆 シンポジウム提題「原発リスクについてどう論じるか」応用物理学会東北支部、アエル、2011年9月23日。

直江清隆 ワークショップ司会・提題「人工物の知識論」 応用哲学会臨時大会、京都大学、2011年9月24日。

直江清隆 シンポジウム提題「倫理学（の研究者）は震災・原発事故にどう向き合えるのか、何ができ／できないのか」日本倫理学会、富山大学、2011年9月30日。

直江清隆・二瓶真理子 ワークショップ提題「工学的判断」と専門知」第10回日本科学技術社会論学会、京都大学、2011年12月3日。

直江清隆 提題発表 設計の哲学 生態学的現象学の技術哲学的展開研究会、立正大学、2011.12.26

直江清隆 ワークショップ提題「社会的意味形成と人工物機能」 応用哲学会第4回大会、千葉大学、2012年4月22日。

直江清隆 提題発表 「原発事故と科学技術倫理」 アルスの会・アルスタウンミーティング（東北大学 GCOE「物質階層を紡ぐ科学フロンティアの新展開」共催）、東北大学、2012年8月24日

直江清隆 提題発表「設計と生態学的心理学」 態学的現象学の技術哲学的展開研究会、中京大学、2012.10.6

直江清隆 司会・趣旨説明 主題別討議「原発事故について倫理学は何が言えるか」、第63回日本倫理学会大会、日本女子大学、2012年10月14日。

直江清隆 シンポジウム司会「技術の現象学」第34回日本現象学会大会、東北大学、2012年11月15日

直江清隆 シンポジウム提題 「技術について哲学は何が語れるか」 日本現象学・社会科学会、神戸大学、2012年12月1日

直江清隆 ワークショップ司会 「リスクマネジメントの技術論（2）～リスクマネジメントにおける技術倫理の問題を提示する」 応用哲学会、南山大学、2013年4月21日

直江清隆 ワークショップ提題「『自己を超えて』をめぐって」 ワークショップ「自己を超えて 哲学のサブジェクト転換」、日本哲学会第72回大会、お茶の水女子大学、2013年5月12日

直江清隆 シンポジウム提題 「思想史における技術」第38回社会思想史学会大会、2013年10月26日(土)、関西学院大学

直江清隆 ワークショップ提題「科学者・技術者の責任概念の再考」第12回科学技術社会論学会、東京工業大学、2013年11月16日。

直江清隆 コメンテーター「統合学としての環境学」統合学術国際研究所第11回合同研究会、KKRホテル熱海、2013年12月15日

直江清隆 ワークショップ提題「人工物の設計における倫理的価値の埋め込み」第6回
応用哲学回大会、関西大学高槻ミュージックキャンパス、2014年5月11日

直江清隆 ワークショップ提題「技術哲学の展開」科学基礎論学会 2014年度大会、慶
應義塾大学、2014年6月14日

直江清隆 招待講演 「技術的経験の現象学」筑波大学哲学・思想学会 2015年度大会、
筑波大学、2014年11月16日

直江清隆 提題発表「技術の機能」 社会・経済システム学会関東支部研究会、東京大
学、2014.12.20

直江清隆 提題発表「自然という「他者」と技術的行為」 技術哲学研究会、金沢四高
記念館、2015.3.16

直江清隆 ワークショップ提題「技術と「他なる自然」」第7回応用哲学学会大会、東北
大学、2015年4月25日

直江清隆 シンポジウム司会「復興とどう向き合うか」第7回応用哲学学会大会、東北大
学、2015年4月25日

直江清隆 シンポジウム（共通課題）提題「考える倫理を提案する 「倫理」とは何を
教える科目か」第66回日本倫理学会大会、熊本大学、2015年10月4日

Satoshi Ogihara, *The Choice of Life in the Myth of Er*, 科研 基盤 (B) 「古代ギリシア正義論
の欧文総合研究—プラトン『国家』とその伝統—」研究集会、静雲荘、箱根、2010年7
月10日

荻原理 「マクダウェルの自然主義批判」、科研基盤B 「哲学的思考の特質と、哲学教育
のあり方」研究集会、2011年3月2日。

荻原理 『『法律』第10巻903a-905dの、神による魂の再配置の話について』第15回ギリ
シャ哲学セミナー、専修大学、2011年9月11日。

荻原理 司会(共同) シンポジウム 共通課題「幸福」、第62回日本倫理学会大会、2011
年10月2日。

荻原理 シンポジウム「中世におけるプラトニズム——トマス・アクィナスおよびイス
ラーム——」、提題「トマスの存在理解をめぐる上枝氏の提題に寄せて」、中世哲学会、
文教大学湘南キャンパス、2012年11月11日

荻原理 特定質問、中畑正志氏著書書評会、慶應義塾、2013年2月9日

荻原理 報告、『ポリテイア』最新論文集の検討会、慶應義塾、2013年7月6日

荻原理 シンポジウム：「「無限」概念の変遷—プラトンからクザーヌスまで—」、提題
「プラトンらと無限」、新プラトン主義協会、慶應義塾日吉キャンパス、2013年9月22

日

荻原理 ワークショップ「自然観の変遷と人間の運命」、司会、および発表「天罰論をめぐって」、応用哲学会第7回年次大会、東北大学、2015年4月25日

原塑 『『存在と時間』と現象学の自然化』 UTCP シンポジウム『『存在と時間』再考：門脇俊介の哲学から出発して』、東京大学、2010年7月30日

原塑 パネルディスカッション「科学技術・ガバナンス・倫理」、科学技術社会論学会シンポジウム「科学技術・ガバナンス・倫理」、京都大学、2011年11月27日

原塑 「自然主義的現象学者としてのハイデガー」、UTCP ワークショップ「現象学の自然化」、東京大学、2011年11月25日

原塑 「刑法における嫌悪感の役割と神経科学——リーガル・モラリズムと嫌悪感——」刑法読書会 2012年2月例会、立命館大学、2012年2月4日

原塑 「脳神経科学リテラシー育成のためのテキストと授業実践の効果測定」、第18回大学研究教育フォーラム、京都大学、2012年3月16日

原塑 「トランス・サイエンスという概念と東日本大震災」、2012年度科学技術社会論学会シンポジウム「東日本大震災をめぐるこれまでとこれから～問題の現在と将来、そのエビデンス～」、東京工業大学、2012年6月16日

原塑 「刑法における嫌悪感情の役割と神経科学」、第9回認知哲学研究会、東京大学、2012年7月28日

原塑 『『存在と時間』のプラグマティズム的解釈から自然主義的解釈へ』、研究会「ハイデガーと自然主義1」、東北大学、2012年9月17日

原塑 「普通の人々の良識ある判断：ヌスバウムにおける感情と刑法」、北日本哲学会、北海道大学、2013年1月13日

原塑 招待講演「刑法と感情—感情に基づく法的判断の健全性—」第21回感情心理学会、東北大学、2013年5月11日

原塑 「感情に基づく法的判断の妥当性—罪刑法定主義と裁判員制度—」刑法読書会 6月例会（第526回）、立命館大学、2013年6月1日

原塑 「ギャラガー&ザハヴィ『現象学的な心』、心の哲学から」、第2回自然主義研究会、一橋大学、2013年6月29日

原塑 「トランスサイエンスとは何か～ポスト3.11の科学コミュニケーション」、科学コミュニケーション研究会関東支部勉強会 2013年7月23日

原塑 招待講演「脳神経科学と法：再場人制度を例として」、尊厳概念のアクチュアリティー・ワークショップ、一橋大学、2013年9月7日

原塑 招待講演「振り込め詐欺と高齢消費者保護」、人工知能学会 第 69 回 言語・音声理解と対話処理研究会(SIG-SLUD)、岩手県立大学、2013 年 12 月 22 日

原塑「道徳心理学としての神経倫理学-道徳的感情としての嫌悪-」、国際ワークショップ「人文・社会科学と脳科学の連携に向けて」、東北大学、2014 年 2 月 20 日

原塑「対話型科学コミュニケーションと科学者の社会的責任」、日本倫理学会第 65 回大会、一橋大学、2014 年 10 月 4 日

原塑「科学者の責任論の STS 的転換」科学技術社会論学会第 13 回年次研究大会、大阪大学、2014 年 11 月 15 日

原塑「トランス・サイエンス概念と対話型科学コミュニケーション」応用哲学会第 7 回年次研究大会、東北大学、2014 年 4 月 26 日

信太光郎「自著『死すべきものの自由—ハイデガーの生命の思考』について」、「池田喬『存在と行為』に対するコメント」、研究会「ハイデガーと自然主義 1」、東北大学、2012 年 9 月 17 日

信太光郎「齋藤元紀『存在の解釈学—ハイデガー『存在と時間』の構造・転回・反復』に対する書評」、研究会「ハイデガーと自然主義 2」、東北大学、2013 年 5 月 26 日

佐藤 駿「カテゴリー的直観再考」、「表象媒体の哲学的研究」研究会、山形大学東京サテライト、2015 年 1 月 11 日

佐藤 駿「自著概観」、「梶尾悠史著『フッサールの志向性理論』、佐藤駿著『フッサールにおける超越論的現象学と世界経験の哲学』」合同合評会、2015 年 2 月 21 日

佐藤 駿「報告：Husserliana XX/1」フッサール研究会特別企画、慶応大学三田キャンパス、2015 年 3 月 13 日

国際学会等

Keiichi Noe, “The Great Earthquake Disaster and Japanese View of Nature”, International Conference: Japanese Philosophy in the East Asian Perspective, Institute for the Advanced Studies in Humanities and Social Sciences, Taiwan National University, 1 Sept. 2012.

野家啓一 シンポジウム司会 The 5th GCOE International Symposium “Weaving Science Web beyond Particle-Matter Hierarchy, 東北大学、2013 年 3 月 4 日-6 日。

座小田豊 報告「「自然」の根源性と「ふるさと」の可能性について—ヘーゲルのイェーナ「自然哲学」構想を手掛かりに—」第 4 回日中哲学フォーラム 2014 年 9 月 21 日(予

定)

直江清隆 シンポジウム司会 The 3rd GCOE International Symposium “Weaving Science Web beyond Particle-Matter Hierarchy, 東北大学、2011年2月17日-18日。

直江清隆 シンポジウム司会 The 4th GCOE International Symposium “Weaving Science Web beyond Particle-Matter Hierarchy, 東北大学、2012年2月17日-18日。

Kiyotaka Naoe, Philosophy of Technology in Japan: Historical Perspectives, Workshop on Philosophy of Technology, Tohoku University, 2012.2.18.

直江清隆 シンポジウム提題、司会「原発事故と価値の転換」 国際シンポジウム：大震災と価値の創生 (International Conference: Disaster and the Creation of Value System) 東北大学、2012年3月9日

直江清隆 シンポジウム司会 The 5th GCOE International Symposium “Weaving Science Web beyond Particle-Matter Hierarchy, 東北大学、2013年3月4日-6日。

Kiyotaka Naoe, Internal Logic of Organizations and the Fukushima Nuclear Accident. 18th International Conference of the Society for Philosophy and Technology, July 5, 2013, Technical University of Lisbon

Kiyotaka Naoe, Human-Centered Design and psychological environment, 8th International Conference on Applied Ethics: 'Applied Ethics in an Era of Emerging Technologies,' November 1, 2013, Hokkaido University

Kiyotaka Naoe, Probleme bezüglich der Wissenschaft, Technik und der Verantwortung, "Bildung durch Integration von Technik und Gesellschaft", Deutsch-Japanische Gesellschaft für integrative Wissenschaft, 7.November,2013, Technische Universität München

Kiyotaka Naoe, Meanings of Technical Artifacts, Japanese - Dutch Workshop in Philosophy of Technology, Twente University Netherlands, 2014.6.17

Kiyotaka Naoe, Engineering and “Collective Intention”. 19th International Conference of the Society for Philosophy and Technology, July 3-5, 2015, Northeastern University, Shenyang, China.

Satoshi Ogihara, The Choice of Life in the Myth of Er in Plato’s Republic, The Dublin Centre for the Study of Platonic Tradition, Trinity College Dublin, February 12, 2010.

Satoshi Ogihara, False Pleasures, B Club, the Faculty of Classics, the University of Cambridge, March 8, 2010.

Satoshi Ogihara, False Pleasures, Graduate Seminar, the Faculty of Classics, the University of

Exeter, March 23, 2010.

Satoshi Ogihara, The Choice of Life in the Myth of Er, IX Symposium Platonium, Keio University, August 6, 2010.

Satoshi Ogihara, 'How free Magnesians are to speak and think about the gods –a remark on the city of Plato's Laws', in the symposium 'Freedom and the State: Plato and the Classical Tradition', Oxford University, August 7, 2012.

Satoshi Ogihara, 特定質問、Simon Blackburn, 'One Cheer for Realism, One Cheer for Rationalism' に対して。The Seventh International Conference on Applied Ethics, Hokkaido University, October 26, 2012.

Satoshi Ogihara, 'Persuasion in Plato's Laws', in the symposium 'Plato and Rhetoric', Hiyoshi Campus, Keio University, April 27, 2014.

Satoshi Ogihara, 'Plato's *Philebus* and the "Subjective-Objective" Contrast', in International Plato Society Midterm Meeting: Platonic Moral Realism, Emory University, Atlanta, March 14, 2015.

Satoshi Ogihara, 'A Couple of Issues Related to Translation', in HeKKSaGOn University Consortium, The 4th German-Japanese University Presidents' Conference, Tohoku University, April 17, 2015.

Hara, Saku, "Structure and Properties of Dialogue Model for Science Communication in Japan," 11th East Asian STS Network Meeting, Tokyo Institute of Technology, 16. Nov. 2013.

Hara, Saku, "Plurality of Fundamental Human Rights: On the LDP's Draft of the Japanese Constitution," The fourth annual HeKKSaGOn Presidents' Conference, Sendai, April 17, 2015

2 教員の受賞歴 (2010~2015 年度)

なし

IV 教員による競争的資金獲得 (2010~2015 年度)

(1) 科学研究費補助金

2010 年度

野家啓一

科学研究費補助金基盤研究 (B) 「科学技術における討議倫理のモデル構築」研究代表者

科学研究費補助金基盤研究 (B)「哲学的思考の特質と哲学教育のあり方」研究
分担者

座小田豊

科学研究費補助金基盤研究 (B)「空間における形の認知を介した「主体」の存
立の基底に見る感覚の根源性についての研究」 研究分担者

科学研究費補助金基盤研究(C)「ドイツ観念論における神概念の展相と主観性概
念の現代的意義の研究」 研究代表者

科学研究費補助金基盤研究(B)「科学技術における討議倫理のモデル構築」研究
分担者

直江清隆

科学研究費補助金基盤研究(A)「ドイツ応用倫理学の総合研究」 研究分担者

科学研究費補助金基盤研究(B)「経済倫理の新たなグローバル・スタンダードの
構築」 研究分担者

科学研究費補助金基盤研究(B)「科学技術における討議倫理のモデル構築」研究
分担者

科学研究費補助金基盤研究 (C)「技術哲学における機能と規範に関する研究」
研究代表者

荻原理

科学研究費補助金基盤研究(B)「科学技術における討議倫理のモデル構築」研究
分担者

科学研究費補助金基盤研究(C)「プラトンにおける「死後の神話」の哲学的意義
の国際的研究」 研究代表者

原塑

科学研究費補助金基盤研究(B)「科学技術における討議倫理のモデル構築」研究
分担者

2011年度

野家啓一

科学研究費補助金基盤研究 (B)「科学技術における討議倫理のモデル構築」研
究代表者

科学研究費補助金基盤研究 (B)「哲学的思考の特質と哲学教育のあり方」研究
分担者

座小田豊

科学研究費補助金基盤研究(C)「ドイツ観念論における神概念の展相と主観性概念の現代的意義の研究」研究代表者

科学研究費補助金基盤研究(B)「科学技術における討議倫理のモデル構築」研究分担者

科学研究費補助金基盤研究 (A)「共感から良心に亘る『共通感覚』の存立機制の解明、並びにその発現様式についての研究」研究分担者

直江清隆

科学研究費補助金基盤研究(B)「科学技術における討議倫理のモデル構築」研究分担者

科学研究費補助金基盤研究 (C)「技術哲学における機能と規範に関する研究」研究代表者

科学研究費補助金基盤研究(B)「初等・中等教育における哲学教育推進のための理論的・実践的研究」研究分担者

荻原理

科学研究費補助金基盤研究(B)「科学技術における討議倫理のモデル構築」研究分担者

科学研究費補助金基盤研究(C)「プラトンにおける「死後の神話」の哲学的意義の国際的研究」研究代表者

原塑

科学研究費補助金基盤研究(B)「科学技術における討議倫理のモデル構築」研究分担者

科学研究費補助金基盤研究(C)「脳神経科学に基づく人格概念の自然化とその刑罰学的意義」研究代表者

科学研究費補助金基盤研究(A)「21世紀市民のための高次リテラシーと批判的思考力のアセスメントと育成」研究分担者

2012年度

野家啓一

科学研究費補助金基盤研究 (B)「哲学的思考の特質と哲学教育のあり方」研究分担者

科学研究費補助金基盤研究(B)「自然観の展開と人間的営為の運命に関する思想的・応用倫理学的研究」研究分担者

科学研究費補助金(研究成果公開促進費)「和算資料全文画像データベースの作成

(第3部) 研究代表者

座小田豊

科学研究費補助金基盤研究(A)「共感から良心に亘る『共通感覚』の存立機制の解明、並びにその発現様式についての研究」研究分担者

科学研究費補助金基盤研究(B)「自然観の展開と人間的営為の運命に関する思想的・応用倫理学的研究」研究代表者

直江清隆

科学研究費補助金基盤研究(C)「技術哲学における機能と規範に関する研究」研究代表者

科学研究費補助金基盤研究(B)「初等・中等教育における哲学教育推進のための理論的・実践的研究」研究分担者

科学研究費補助金基盤研究(A)「知のエコロジカル・ターン：人間的環境回復のための生態学的現象学」研究分担者

科学研究費補助金基盤研究(B)「自然観の展開と人間的営為の運命に関する思想的・応用倫理学的研究」研究分担者

荻原理

科学研究費補助金基盤研究(C)「プラトンにおける「死後の神話」の哲学的意義の国際的研究」研究代表者

科学研究費補助金基盤研究(B)「自然観の展開と人間的営為の運命に関する思想的・応用倫理学的研究」研究分担者

原塑

科学研究費補助金基盤研究(C)「脳神経科学に基づく人格概念の自然化とその刑法的意義」研究代表者

科学研究費補助金基盤研究(A)「21世紀市民のための高次リテラシーと批判的思考力のアセスメントと育成」研究分担者

科学研究費補助金基盤研究(B)「自然観の展開と人間的営為の運命に関する思想的・応用倫理学的研究」研究分担者

2013年度

座小田豊

科学研究費補助金基盤研究(A)「共感から良心に亘る『共通感覚』の存立機制の解明、並びにその発現様式についての研究」研究分担者

科学研究費補助金基盤研究(B)「自然観の展開と人間的営為の運命に関する思想的・応用倫理学的研究」研究代表者

直江清隆

科学研究費補助金基盤研究(B)「初等・中等教育における哲学教育推進のための理論的・実践的研究」研究分担者

科学研究費補助金基盤研究(A)「知のエコロジカル・ターン：人間的環境回復のための生態学的現象学」研究分担者

科学研究費補助金基盤研究(B)「自然観の展開と人間的営為の運命に関する思想的・応用倫理学的研究」研究分担者

科学研究費補助金基盤研究 (C)「技術哲学のナラティブ的展開」研究代表者

科学研究費補助金基盤研究 (C)「記述に根ざした技術の現象学的研究：技術の記述的探求と批判的視点の確立」研究分担者

荻原理

科学研究費補助金基盤研究(C)「プラトンにおける「死後の神話」の哲学的意義の国際的研究」研究代表者

科学研究費補助金基盤研究(B)「自然観の展開と人間的営為の運命に関する思想的・応用倫理学的研究」研究分担者

原塑

科学研究費補助金基盤研究(C)「脳神経科学に基づく人格概念の自然化とその刑法学的意義」研究代表者

科学研究費補助金基盤研究(A)「21世紀市民のための高次リテラシーと批判的思考力のアセスメントと育成」研究分担者

科学研究費補助金基盤研究(B)「自然観の展開と人間的営為の運命に関する思想的・応用倫理学的研究」研究分担者

科学研究費補助金基盤研究 (A)「農村再建における役割意識創発の実験的研究-農業経済倫理と社会脳科学の融合-」研究分担者

2014年度

座小田豊

科学研究費補助金基盤研究 (A)「共感から良心に亘る『共通感覚』の存立機制の解明、並びにその発現様式についての研究」研究分担者

科学研究費補助金基盤研究(B)「自然観の展開と人間的営為の運命に関する思想的・応用倫理学的研究」研究代表者

直江清隆

科学研究費補助金基盤研究(A)「知のエコロジカル・ターン：人間的環境回復のための生態学的現象学」研究分担者

科学研究費補助金基盤研究(B)「自然観の展開と人間的営為の運命に関する思想

史的・応用倫理学的研究」研究分担者

科学研究費補助金基盤研究 (C) 「技術哲学のナラティブ的展開」研究代表者

科学研究費補助金基盤研究 (C) 「記述に根ざした技術の現象学的研究：技術の
記述的探求と批判的視点の確立」研究分担者

荻原理

科学研究費補助金基盤研究(B) 「自然観の展開と人間的営為の運命に関する思想
史的・応用倫理学的研究」研究分担者

科学研究費補助金基盤研究 (C) 「西洋古代の魂不滅説・滅亡説の論拠・含意に関
する哲学的研究」研究代表者

原塑

科学研究費補助金基盤研究(A) 「21世紀市民のための高次リテラシーと批判的思
考力のアセスメントと育成」研究分担者

科学研究費補助金基盤研究(B) 「自然観の展開と人間的営為の運命に関する思想
史的・応用倫理学的研究」研究分担者

科学研究費補助金基盤研究 (A) 「農村再建における役割意識創発の実験的研究-
農業経済倫理と社会脳科学の融合-」研究分担者

2015年度

直江清隆

科学研究費補助金基盤研究(A) 「「知のエコロジカル・ターン：人間的環境回復の
ための生態学的現象学」研究分担者

科学研究費補助金基盤研究(B) 「自然観の展開と人間的営為の運命に関する思想
史的・応用倫理学的研究」研究分担者

科学研究費補助金基盤研究 (C) 「技術哲学のナラティブ的展開」研究代表者

科学研究費補助金基盤研究 (C) 「記述に根ざした技術の現象学的研究：技術の
記述的探求と批判的視点の確立」研究分担者

荻原理

科学研究費補助金基盤研究(B) 「自然観の展開と人間的営為の運命に関する思想
史的・応用倫理学的研究」研究分担者

科学研究費補助金基盤研究(C) 「西洋古代の魂不滅説・滅亡説の論拠・含意に関
する哲学的研究」研究代表者

科学研究費補助金基盤研究(B) 「プラトン正義論の解釈と受容に関する欧文包括

研究」研究分担者

原塑

科学研究費補助金基盤研究(A)「21世紀市民のための高次リテラシーと批判的思考力のアセスメントと育成」研究分担者

科学研究費補助金基盤研究(B)「自然観の展開と人間的営為の運命に関する思想的・応用倫理学的研究」研究分担者

科学研究費補助金基盤研究 (A)「農村再建における役割意識創発の実験的研究-農業経済倫理と社会脳科学の融合-」研究分担者

(2) その他

2010年度

野家啓一

東北大学グローバルCOE「物質階層を紡ぐ科学フロンティアの新展開」(リーダー：井上邦雄理学研究科教授)事業推進担当者(教育・広報担当)

科学技術振興機構・社会技術研究開発センター研究会「科学技術と知の精神文化-新しい科学技術文明の構築に向けて-」研究分担者

直江清隆

東北大学グローバルCOE「物質階層を紡ぐ科学フロンティアの新展開」(リーダー：井上邦雄理学研究科教授)事業推進担当者(教育・広報担当)

原塑

玉川大学グローバルCOEプログラム、平成21年度～「社会における心の創成」(リーダー 坂上雅道)、研究協力者

2011年度

野家啓一

東北大学グローバルCOE「物質階層を紡ぐ科学フロンティアの新展開」(リーダー：井上邦雄理学研究科教授)事業推進担当者(教育・広報担当)

科学技術振興機構・社会技術研究開発センター研究会「科学技術と知の精神文化-新しい科学技術文明の構築に向けて-」研究分担者

直江清隆

東北大学グローバルCOE「物質階層を紡ぐ科学フロンティアの新展開」(リーダー：井上邦雄理学研究科教授)事業推進担当者(教育・広報担当)

研究科長裁量経費（シンポジウム）大震災と価値の創生（International Conference:
Disaster and the Creation of Value System）

原塑

玉川大学グローバル COE プログラム、平成 21 年度～「社会における心の創成」
（リーダー 坂上雅道）、研究協力者
東北大学防災科学研究拠点メンバー

2012 年度

野家啓一

東北大学グローバル COE 「物質階層を紡ぐ科学フロンティアの新展開」（リー
ダー：井上邦雄理学研究科教授）事業推進担当者（教育・広報担当）
科学技術振興機構・社会技術研究開発センター研究会「科学技術と知の精神文
化—新しい科学技術文明の構築に向けて—」研究分担者

座小田豊

東北大学リーディング大学院プログラム・複合領域型（安全安心）「グローバル
安全学トップリーダー育成プログラム」運営委員、入試および学位授与委員

直江清隆

東北大学グローバル COE 「物質階層を紡ぐ科学フロンティアの新展開」（リー
ダー：井上邦雄理学研究科教授）事業推進担当者（教育・広報担当）

原塑

玉川大学グローバル COE プログラム、平成 21 年度～「社会における心の創成」
（リーダー 坂上雅道）、研究協力者

2013 年度

座小田豊

東北大学リーディング大学院プログラム・複合領域型（安全安心）「グローバル
安全学トップリーダー育成プログラム」運営委員、入試および学位授与委員

直江清隆

東北大学卓越した大学院拠点形成支援補助金（実施責任者 井上邦雄理学研究
科教授）実施担当者

東北大学リーディング大学院プログラム・複合領域型（物質）「マルチディメン
ジョン物質工学リーダー養成プログラム」プログラム担当者

2014 年度

座小田豊

東北大学リーディング大学院プログラム・複合領域型（安全安心）「グローバル安全学トップリーダー育成プログラム」運営委員、入試および学位授与委員

直江清隆

東北大学リーディング大学院プログラム・複合領域型（物質）「マルチディメンション物質理工学リーダー養成プログラム」プログラム担当者

2015 年度

直江清隆

東北大学リーディング大学院プログラム・複合領域型（物質）「マルチディメンション物質理工学リーダー養成プログラム」プログラム担当者

原 塑

東北大学リーディング大学院プログラム・複合領域型（安全安心）「グローバル安全学トップリーダー育成プログラム」プログラム担当者

V 教員による社会貢献（2010～2015 年度 5 月 20 日）

野家啓一 国立療養所西多賀病院倫理委員会委員（2001 年～現在）

野家啓一 東北薬科大学倫理委員会委員（2003 年～現在）

野家啓一 日本学術会議第 20 期、21 期、22 期会員（2005 年～現在）

野家啓一 日本学術会議哲学委員会委員長（2005 年～現在）

野家啓一 宮城県図書館協議会委員（2005 年～2011 年）

野家啓一 裁判官指名諮問委員会仙台地域委員会委員（2006 年～現在）

野家啓一 新潟大学人文社会・教育科学系懇話会委員（2007 年～現在）

野家啓一 日本学術会議「基礎科学の長期展望分科会」委員（2008～2010 年）

野家啓一 日本学術会議「工学基盤における知の統合分科会」委員（2011 年～現在）

野家啓一 東北学院大学外部評価委員会委員（2010 年度～現在）

野家啓一 農学部・農学研究科「長谷部ゼミ」講師、2011 年 7 月 13 日

野家啓一 「コスモス国際賞」（国際花と緑の博覧会記念協会）選考専門委員会委員、2010 年～現在

野家啓一 「京都賞／思想・芸術部門」（稲盛財団）専門委員会委員長・審査委員会委員、2011 年 11 月～現在

野家啓一 東京大学エグゼクティブ・マネジメント・プログラム（第7期）講師、
2012年4月20日

野家啓一 桐光学園特別授業講師、2012年4月28日

野家啓一 人間文化研究機構評議員・機構長選考委員会委員、2012年4月～現在

野家啓一 文部科学省「卓越した大学院拠点形成支援補助金事業」委員会委員、
2012年6月～現在

野家啓一 日本学術振興会特別研究員等審査委員会専門委員・国際事業委員会書
面審査委員、2012年8月～現在

座小田豊 東北大学出版会 総務担当理事（1999年～）兼 副理事長（2012年～）

座小田豊 東北工業大学書面評価委員（2010年度）

座小田豊 弘前大学大学院人文社会科学研究所外部評価委員会委員（2011年）

座小田豊 東北大学生協 理事（2012年5月～）

座小田豊 日本ヘーゲル学会 『精神現象学』セミナー 講師（2013年3月24日）

座小田豊 大学出版部協会 50周年記念連続シンポジウム

新しい社会を拓く大学の力 【第3回】防災と復興の知—3・11以後を生きる：講
師（2013年9月28日）

座小田豊 大学出版部協会 編集部会研修会における講師

報告：「持続可能な大学出版経営—東北大学出版会の例から」 琉球大学 2014
年4月18日

直江清隆 東北大学大学院薬学研究科 Master of Clinical Science (MCS) コース講師
第12回「研究と臨床の倫理」2010年6月24日

直江清隆 日本学術振興会最先端・次世代研究開発支援プログラム書面レビューア
(2010年度)

直江清隆 東北大学大学院薬学研究科 Master of Clinical Science (MCS) コース講師
第7回「研究と臨床の倫理」2011年5月25日

直江清隆 日本学術振興会特別研究員等審査会専門委員及び国際事業委員会書面
審査員(2011年度～2012年度)

直江清隆 東北大学文学部オープンキャンパス公開講義、「私たちは知を信じるこ
とができるのか」 2011年7月27日

直江清隆 東北大学大学院薬学研究科 Master of Clinical Science (MCS) コース講師
第7回「研究と臨床の倫理」2012年5月24日

直江清隆 仙台第一高等学校SSH東北大学公開講座 「身体をめぐる二つの語り方ー科学的語り方と哲学的語り方ー」 2012年7月14日

直江清隆 東京都高等学校公民科「倫理」・「現代社会」研究会 第三回研究例会 「原発事故と技術の哲学」 2013年2月4日

直江清隆 『『高校倫理からの哲学』とその先』、「シンポジウム 中等教育でいかに哲学・倫理教育を進めるか」 2013年2月9日

直江清隆 日本学術振興会最先端・次世代研究開発支援プログラム書面確認有識者(2013年度)

直江清隆 日本学術振興会科学研究費委員会専門委員 (2013年11月～現在)

直江清隆 広島大学附属中高等学校SSH「科学と倫理」プログラム「科学的な決め方に倫理はどう関係するのだろうか」 2013年11月20日

直江清隆 日本学術会議特任連携会員 (2014年3月～9月)

直江清隆 東北大学大学院薬学研究科 Master of Clinical Science (MCS) コース講師 第5回「研究と臨床の倫理」 2014年5月8日

直江清隆 日本学術会議特任連携会員 (2015年2月～)

直江清隆 東北大学大学院薬学研究科 Master of Clinical Science (MCS) コース講師 第5回「研究と臨床の倫理」 2015年5月7日

荻原理 朝日カルチャーセンター講師、「プラトン哲学の総括的研究」全5回のうち1回を担当、1回はゲスト講師として参加(加藤信朗、栗原裕次、納富信留とともに) 2012年9月8日、22日

荻原理 講演「哲学的なものの見方について」、洗足学園音楽大学、2014年9月3日

荻原理 日本学術振興会科学研究費委員会専門委員 2013年12月～現在

荻原理 日本学術振興会特別研究委員等審査会専門委員および国際事業委員会書面審査員・書面評価員 2015年8月～

原塑 みやぎ県民大学の講師、「自由意志は幻想か? 脳神経科学からの挑戦」 2011年9月15日

原塑 日本学術振興会特別研究員等審査会専門委員 (2011年度～2012年度)

原塑 気仙沼地域教育支援プロジェクト(主催:浅沼宏、東北大学大学院環境科学研究科)による気仙沼高校生徒への体験授業、体験ゼミの講師 2011年11月26日

原塑 東北大学脳科学グローバルCOE・倫理教育セミナー講師 2012年3月23日
原塑 アカデミーヒルズ、六本木ライブラリー講師 2013年7月22日
原塑 平成25年度総務省ネットワーク型BMI研究倫理ガイドライン策定に向けた
意見交換会倫理部会有識者
原塑 平成26年度総務省ネットワーク型BMI研究倫理ガイドライン策定に向けた
意見交換会倫理部会有識者

VI 教員による学会役員等の引き受け状況（2010～2015年度）

野家啓一 日本哲学会委員(1991～2011)
同評議員・理事（2011～現在）
野家啓一 日本科学哲学会理事、評議員、編集委員(1988～現在)
同理事(1995～現在)
野家啓一 科学基礎論学会理事(1987～現在)
同評議員(1990～現在)
同理事(1996～2011)
野家啓一 日本現象学会委員(1986～現在)
野家啓一 日本ホワイトヘッド・プロセス学会理事(1990～現在)
野家啓一 東北哲学会委員、編集委員(1981～現在)
野家啓一 Husserl Studies, Editorial Board (1997～現在)
野家啓一 総合人間学会理事(2006～2011)
同顧問 (2011～現在)
野家啓一 西田哲学会理事（2004～現在）
野家啓一 日本生命倫理学会評議員（2012～現在）

座小田豊 東北哲学会委員、編集委員（1999年～現在）
同会長（2008年～2013年）
座小田豊 日本哲学会 委員（1999年～2011年）
座小田豊 日本哲学会 国際交流WG実行委員長(2010年～2012)
評議員（2011年～現在）
理事（2011年～2013年）
座小田豊 日本ヘーゲル学会 論文審査委員（2007年～2010年）
監事(2009年～2011年)
理事(2013年～2015年)

論文審査委員長(2013年～2015年)

- 直江清隆 日本科学哲学会編集委員 (2006年～現在)
直江清隆 東北哲学会委員 (2006年～現在)
直江清隆 日本現象学社会科学会委員 (2008年～2011年)
直江清隆 日本哲学会編集委員 (2009年～2012年)
日本哲学会哲学教育ワーキンググループ委員 (2010年～現在)
直江清隆 応用哲学会理事 (2012年～現在)
直江清隆 日本哲学会理事 (2013年～現在)
日本哲学会哲学教育ワーキンググループ座長 (2013年～現在)
直江清隆 日本倫理学会編集委員・和辻賞選考委員 (2013年～現在)
直江清隆 日本倫理学会編集委員会・和辻賞選考委員会委員長 (2014年～現在)
直江清隆 科学基礎論学会評議員 (2014～現在)
直江清隆 応用哲学会第7回大会実行委員長 (2014年～2015年)
直江清隆 日本倫理学会評議員 (2015年～現在)
直江清隆 科学技術社会論学会理事 (2015年～現在)
直江清隆 科学技術社会論学会第14回大会実行委員長 (2015年～現在)
直江清隆 日本現象学社会科学会委員 (2015年～現在)

- 荻原理 東北哲学会委員 (2003年～現在)
荻原理 中世哲学会推薦評議員 (2008年～現在)
荻原理 ギリシャ哲学セミナー運営委員 (2009年9月～現在)
荻原理 日本倫理学会編集委員・和辻賞選考委員 (2012年～2013年)

- 原塑 東北哲学会 委員 (2009年～現在)
原塑 日本科学哲学会編集委員 (2012年～現在)

Ⅶ 教員の教育活動

(1) 学内授業担当 (2015年度)

1 大学院授業担当

- 教授 座小田豊
哲学研究演習Ⅰ (哲学全教員で共同担当)
哲学研究演習Ⅱ (哲学全教員で共同担当)

近現代哲学研究演習 I

近現代哲学研究演習 II

哲学課題研究

哲学課題研究

教授 直江清隆

哲学研究演習 I (哲学全教員で共同担当)

哲学研究演習 II (哲学全教員で共同担当)

哲学特論 I

生命環境倫理学研究演習 2 学期

近現代哲学研究演習 4 単位

東北大学大学院生命科学研究科 生命科学特論 2 回分担当

東北大学大学院薬学研究科 応用医療薬学特論 1 回分担当

東北大学マルチディメンション物質理工学リーダー養成プログラム 科学技術倫理

哲学課題研究

准教授 荻原理

哲学研究演習 I (哲学全教員で共同担当)

哲学研究演習 II (哲学全教員で共同担当)

古代中世哲学研究演習 I (前期・後期)

哲学特論 (後期)

哲学課題研究

准教授 原塑

哲学研究演習 I (哲学全教員で共同担当)

哲学研究演習 II (哲学全教員で共同担当)

哲学特論 I

哲学特論 II

哲学課題研究

2 学部授業担当

教授 座小田豊

哲学思想概論 (近代哲学の生成と展開) 3-4 セメ

哲学演習 5-6 セメ

教授 直江清隆

哲学思想基礎講読 3-4 セメ (教員 4 人で担当)

現代哲学概論 3-4 セメ

哲学思想演習 5-6 セメ

生命環境倫理学各論 5 セメ

生命環境倫理学演習 6 セメ

東北大学薬学部 病院薬学概論 2 1 回分担当

准教授 荻原理

人文社会序論 2 セメ (教員 3 人で担当)

哲学思想基礎講読 3-4 セメ (教員 4 人で担当)

哲学思想概論 (古代哲学史) 3-4 セメ

哲学思想各論 6 セメ

哲学思想演習 5-6 セメ

准教授 原塑

人文社会序論 2 セメ (教員 3 人で担当)

哲学思想基礎講読 3-4 セメ (教員 4 人で担当)

現代哲学概論 3-4 セメ

哲学思想演習 5-6 セメ

助教 佐藤駿

哲学思想演習 5-6 セメ

3 共通科目・全学科目授業担当

教授 直江清隆

科学と情報 (全学教育科目) 2 セメ

人文社会総論 1 セメ

英語原書講読入門 2 セメ

准教授 荻原理

ラテン語 3-4 セメ

英語原書購読入門 2 セメ

(2) 他大学への出講 (2010~2015 年度)

教授 直江清隆

京都大学文学部・大学院文学研究科非常勤講師 2013 年度

宮城学院女子大学非常勤講師 2006~2013 年度

准教授 萩原理

東北学院大学非常勤講師 2010年度～現在

准教授 原塑

玉川大学脳科学研究所特別研究員 2009年～現在

日本女子大学大学院、「心理学特別研究 I 講義、認知神経科学 2」、2009年度

東京大学教養学部後期課程、「ドイツ思想テキスト分析 I」、2009年度

日本女子大学大学院、「心理学特別研究 I 講義、認知神経科学 2」、2010年度

助教 伊藤周史 (2010～2012年度)

尚綱学院大学非常勤講師、「哲学」、2010年度

東北文化学園大学非常勤講師、「現代思想」、2011年度～2012年度

仙台白百合女子大学非常勤講師、「生命倫理」、2012年度

助教 信太光郎 (2013年度)

仙台白百合女子大学非常勤講師、「哲学」、「人間と文化」2011年度～2012年度

宮城大学非常勤講師、「哲学」、2013年度

助教 佐藤駿 (2014年度～現在)

東北芸術工科大学非常勤講師「記号論」、2013年度～現在

山形保健医療大学非常勤講師「哲学」、2013年度～現在

宮城大学非常勤講師「哲学」、2014年度～現在